第 2 部

**大阪大学大学院人文学研究科
人文学専攻**

**各専門分野・コースにおける
教育・研究活動の概要**

【凡 例】

- I. 組織については、教員、在學生は2022年5月1日を基準とし、この時点での教員および在學生の現員を示す。また修了生については、2022年度(2023年3月修了)について記す。

- II. 大学院生の研究業績、受賞等は、2022年度に在籍した者が、その在籍期間中に発表あるいは授与されたものについて記す。また2022年度におこなわれた学位授与について、課程博士と論文博士にわけて記載する。

- III. 教員の研究活動については、原則として2022年度に各専門分野・コースに在職した者のデータを示す。研究業績については2022年度の在籍期間中に発表されたものを記載する。2022年度中に、本研究科大学院生であったものが本研究科教員になった場合には、その大学院生時代に発表した研究業績をあわせて記入する(この場合には大学院生の研究業績の欄にも同じ業績が示される)。なお受賞についても2022年度中に授与されたものを記載する。

哲学哲学史

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

各種論文作成のためのさまざまな個別指導を行い、卒業論文及び修士論文の題目を公開した。/学部生と大学院生が学問的な交流をもてるように、共通の演習及び講義を行うとともに、大学院生の論文作成演習への学部生の参加を促した。/分属が決定された1年生に対して2022年度は3回(1回120分)プレゼミナールを開催した。/英語による授業を開講し、学生たちの英語によるディスカッション能力の向上を図った。/「世界哲学の日」記念講演会、大阪哲学ゼミナール及び哲学ワークショップを開催し、院生及び学部生の哲学に対する関心を深化させた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022 年度 5 月現在)

教授 1 名 准教授 1 名 講師 1 名 助教 1 名

教授：舟場 保之
准教授：嘉目 道人
講師：三木那由他
助教：安西なつめ

1-2-2 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【人文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		1	2	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	1	0	0	0	0	0

*うち留学生 1 名、社会人学生 0 名

【文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		6	6	0	0	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	2	0	0	0	0	0

*うち留学生 2 名、社会人学生 1 名

1-2-3 修了生 (2022 年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	5	1	1

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022 年度)

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 0名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

なし

1-4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注) 3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1: 0名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計0名)

【文学研究科】 DC1: 0名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計0名)

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)
文学研究科	2(2)	6(0)	0(0)	0(0)	0(0)	8(2)
計	2(2)	8(0)	0(0)	0(0)	0(0)	10(2)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	0	3	0	0	3
文学研究科	0	4	8	0	0	12
計	0	4	11	0	0	15

1-6-3. 業績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

三富雄介 「不同意における譲歩主義と懐疑論的帰結」『メタフシカ』第 53 号, pp.67-75, 査読無, 2022/12/23

三富雄介 「集団の証言による知識 —信頼性主義と確信説—」『待兼山論叢』哲学篇第 56 号, pp.15-30, 査読無, 2022/12/26

【文学研究科】

〔博士前期〕

大西健太 「『研究ノート』A.J.エイヤー『言語・真理・論理』の論理実証主義〜とりわけヘーゲルについて考えるために〜」『メタフシカ』第 53 号, pp.45-55, 査読無, 2022/12/1

成田玲央奈 「ジュディス・バトラーによるアイデンティティを越えて連帯する重要性について」『若手研究者フォーラム要旨集』第 6 号, pp.19-22, 査読無, 2022/9/5

成田玲央奈 「ジュディス・バトラーの普遍概念——文化翻訳の観点から」『メタフシカ』第 53 号, pp.57-65, 査読無, 2022/12/23

YAO XIAOTONG 「全体主義下の生得的権利の不在について—カントの生得的権利からアーレントの全体主義論を考察する」『第六回若手研究者フォーラム 発表要旨』第 6 号, pp.43-46, 査読無, 2022/9/14

YAO XIAOTONG 「「法と道徳」(タナー講義一九八六年)「第一講 合法性による正統性はいかにして可能なのか?」『事実性と妥当性』』『メタフシカ』第 53 号, pp.77-83, 査読無, 2022/12/23

〔博士後期〕

岩本智孝 「ヘルダーはいかなる啓蒙主義者なのか——カッシーラーによる解釈をめぐって——」『メタフシカ』第 53 号, pp.23-35, 査読無, 2022/12/23

佐々木尽 「『真理と正当化』におけるハーバーマスの真理理論」『倫理学研究』第 52 号, pp.119-130, 査読有, 2022/6/30

三輪泰之 「『純粹理性の批判』における理念の仮象とその有用性について」『アルケー』第 30 号, pp.115-126, 査読有, 2022/6/30

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

志水凜 「権威の創設とは何を意味するのか?」, 第 20 回アーレント研究大会, 日本アーレント研究会(オンライン), 2022/9/10

志水凜 「「新しい権威」とは何か?」, 第 12 回大阪哲学ゼミナール, 大阪哲学ゼミナール(オンライン), 2022/9/26

志水凜 「権力と権威の関係を解きほぐす—政治哲学の観点から—」, 第 7 回豊中地区研究交流会, 大阪大学大学院理学研究科他, 大阪大学会館アセンブリーホール(対面), 2022/11/4

【文学研究科】

〔博士前期〕

大西健太「ヘーゲル『精神現象学』B.自己意識 章にみる独我論的視座への可能性」,日本ヘーゲル学会第33回研究大会,日本ヘーゲル学会,創価大学(ハイブリッド), 2022/6/11

成田玲央奈「ジュディス・バトラーによるアイデンティティを越えて連帯する重要性について」,第6回若手研究者フォーラム,大阪大学大学院 人文学研究科・文学部 研究推進室,大阪大学(ハイブリッド),2022/9/14

成田玲央奈「文化翻訳と社会運動」,第12回大阪哲学ゼミナール,大阪哲学ゼミナール,大阪大学(オンライン),2022/9/27

成田玲央奈「文化翻訳と遂行的矛盾——ジュディス・バトラーによる考察から」,第13回大阪哲学ゼミナール,大阪哲学ゼミナール,大阪大学(オンライン),2023/1/14

成田玲央奈「ジュディス・バトラーの普遍概念——文化翻訳の観点から」,第24回 handai metaphysica 研究例会,handai metaphysica,大阪大学(オンライン),2023/3/13

YAO XIAOTONG「全体主義下の生得的権利の不在について——カントの生得的権利からアーレントの全体主義論を考察する」,第6回若手研究者フォーラム,大阪大学人文学研究科・文学部 研究推進室,大阪大学(ハイブリッド),2022/9/14

YAO XIAOTONG「全体主義下のアーレントの罪責構造及びその限界」,第13回大阪哲学ゼミナール,大阪哲学ゼミナール,大阪大学(オンライン),2023/1/13

YAO XIAOTONG「法と道徳」(タナー講義一九八六年)「第一講 合法性による正統性はいかにして可能なのか?」『事実性と妥当性』,第24回 handai metaphysica 研究例会,handai metaphysica,大阪大学(オンライン),2023/3/13
[博士後期]

岩本智孝「カッシーラーにおける言語の三側面——感覚・反省・統一」,関西哲学会第75回大会,関西哲学会,立命館大学(対面),2022/10/22

末田圭果「生存を離れて何かを意欲することは可能か——苦悩に対する救済としての「意志の否定」」,日本ショーペンハウアー協会全国大会,日本ショーペンハウアー協会,創価大学(対面),2022/12/10

溝越大秦「言語ゲームは誰のものか」,第21回哲学ワークショップ,大阪大学哲学ワークショップ運営委員会,大阪大学(オンライン),2023/2/17

三輪泰之「カントの『純粹理性の批判』における「批判の自由」—自由の論証から自由な論証へ—」,関西倫理学会2022年度大会,関西倫理学会,大阪大学(対面),2022/11/12

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

[博士前期] なし

[博士後期] なし

【文学研究科】

[博士前期] なし

[博士後期] なし

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	1	0	1

計	1	0	1
---	---	---	---

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】

米田恵 「理性法構想の可能性——W. ケアスティングのカント法論解釈を手がかりに——」 2023/3

主査：舟場保之 副査：中村征樹、嘉目道人

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 (就職先など、数)

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	0	0	1	1	4	0	5

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	1	0	1	0	1

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】 なし

【文学研究科】 なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 2 名

【人文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 2 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 1 名
その他 1 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

欧文学術誌 *Philosophia OSAKA* 第 18 号を刊行し、海外主要大学及び国内主要大学に送付した。また、科学技術社会論専門分野及び臨床哲学専門分野との共同で論文集『メタフュシカ』第 53 号を発刊し、国内主要大学に送付した。これらはどちらも、Web 上での公開も行っている。2022 年度に、「世界哲学の日」記念講演会を 1 回、大阪哲学ゼミナールを 2 回、handai metaphysica 研究例会を 1 回、哲学ワークショップを 1 回、開催した。スタッフが国際共同研究会で発表し、欧文論文を発表した。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

第 12 回大阪哲学ゼミナール

場所：https://us02web.zoom.us/j/3179947724?pwd=Zit5TXdnVjZWYXZ6ZWpZRmk2VWRydz09

ミーティング ID: 317 994 7724

パスコード: 838955

日程：2022 年 9 月 26 日～27 日

9 月 26 日（月）共同討議：『革命について』再読——権威の喪失のあとで

10:00-10:20

主旨説明

10:30-12:00 青木崇（一橋大学）14 名

「理論と実践とアーレント——「政治的なもの」の Gründung」

13:00-14:30 志水凜（大阪大学）15 名

「新しい権威」とは何か？

16:40-17.00

全体討論

9 月 27 日（火） 14 名

13:00-14:30 成田玲央奈（哲学哲学史博士前期課程）

「文化翻訳と社会運動」

14:40-15:20 舟場保之（哲学哲学史教員）

「＜永遠平和＞が道徳性とは無関係なことについて」

のべ 43 名。

2022 「世界哲学の日」記念講演会

（2022 年 11 月 26 日（土）14 時～16 時、zoom のミーティング機能を用いたオンライン方式）

講演者：安西なつめ（哲学哲学史助教）

講演タイトル：切り開いて見えるもの、見えないもの—初期近代の医学と「想像の力」—

講演概要：

想像 (imaginatio) の力は人を病気にし、癒やし、時に生まれてくる子どもの髪や皮膚の色を変え、その形までも変化させる。17 世紀西洋で創刊された医学・自然学の雑誌には、こうした当時の理解

のもと、想像の力によって生じたとされる例が複数報告された。そのいくつかには図版や解剖の結果が付されている。目に見えない想像の力がどのようにして身体に影響を与えると考えられたのだろうか。またその想像の源泉はどのように求められたのだろうか。初期近代における医学と哲学の問題を、雑誌に収録された症例の報告から考察する。

参加者 7 名。

第 13 回大阪哲学ゼミナール

場所 : <https://us02web.zoom.us/j/3179947724?pwd=Zit5TXdnVjZWYXZ6ZWpZRmk2VWRydz09>

ミーティング ID: 317 994 7724

パスコード: 838955

日程 : 2023 年 1 月 13 日～15 日

- 1 月 13 日 (金) 10:00-13:00 吉永和加 (名古屋市立大学教授)
「レヴィナスとデリダ 1」
14:00-15:30 森島淳貴 (大阪大学文学部哲学・思想文化学)
「文化的単位と政治的単位的一致という要請について」
15:40-17:10 姚 曉彤 (大阪大学大学院博士前期課程)
「全体主義下のアーレントの罪責構造及びその限界」
21 名 / 14 名
- 1 月 14 日 (土) 10:00-13:00 吉永和加 (名古屋市立大学教授)
「レヴィナスとデリダ 2」
14:00-16:00 共同討議「遂行的矛盾について」
成田玲央奈 (大阪大学大学院博士前期課程)
「文化翻訳と遂行的矛盾」 (仮)
舟場保之 (大阪大学教授)
「異議申し立てと遂行的矛盾」
16 名 / 14 名
- 1 月 15 日 (日) 10:00-13:00 吉永和加 (名古屋市立大学教授)
「レヴィナスとデリダ 3」
14:00-16:00 立花達也 (大阪大学大学院基礎工学研究科特任助教)
「存在に先立つ倫理の観点から見たロボットの権利論について
——近年のロボット倫理におけるレヴィナスの援用を検討する」
14 名 / 12 名

のべ 91 名。

・第 21 回哲学ワークショップ (2023 年 2 月 18 日 (土)、Zoom のミーティング機能を用いたオンライン方式)

13:00～13:10 : 開会および委員挨拶

13:10～14:10 : 個人発表① 中谷 碩岐 (人間科学部人間科学科4年)

表題: 前期デリダにおける「言語のnormalité」と「exemplaireな言語」の関係について

14:20～15:20 : 個人発表② 柴尾 万葉 (文学研究科西洋美術史研究室博士前期課程2年)

表題: ピピロッチェ・リストの表現に関する一考察——エクリチュール・フェミニンとの類似性を中心にして——

15:30~16:30 : 個人発表③ 溝越 大泰 (文学研究科哲学哲学史博士後期課程2年)

表題: 言語ゲームは誰のものか

参加者 16 名。

第 24 回 handai metaphysica 研究例会 (2023 年 3 月 13 日、Zoom のミーティング機能を用いたオンライン方式)

YAO Xiaotong (哲学哲学史博士前期課程)

Jürgen Habermas, *Recht und moral* (Tanner Lecture 1986) Erste Vorlesung *Wie ist Legitimität durch Legalität möglich?*, in: ders., *Faktizität und Geltung*, Suhrkamp, 1992.

安西なつめ (哲学哲学史助教)

17 世紀の医学自然学雑誌に収録された母親の想像 (力) が与える作用の稀な例

大西健太 (哲学哲学史博士前期課程)

A.J. エイヤー『言語・真理・論理』の論理実証主義〜とりわけヘーゲルについて考えるために〜

成田玲央奈 (哲学哲学史博士前期課程)

ジュディス・バトラーの普遍概念——文化翻訳の観点から

三富雄介 (哲学哲学史博士後期課程)

不同意における譲歩主義と懐疑論的帰結

舟場保之 (哲学哲学史教授)

法治平和主義とは無関係な解釈についての批判的考察

嘉目道人 (哲学哲学史准教授)

行為の記述をめぐるコンフリクトと、二人称性の問題

参加者 16 名。

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2-3. 教員の研究活動

舟場 保之 教授

1962 年生。1992 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。文学博士 (大阪大学)。立命館大学嘱託講師、大阪大学文学研究科准教授、2017 年 4 月から同教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。

専攻: ドイツの近代・現代哲学

1. 論文

Funaba, Yasuyuki, “Über zwei Gründe, warum stehende Heere mit der Zeit ganz aufhören sollen” *Philosophia OSAKA*, 第 18 号, pp.13-22, 査読無, 2023/3/1

舟場保之「法治平和主義とは無関係な解釈についての批判的考察」『メタフシカ』第 53 号, pp.1-12, 査読無, 2022/12/23

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

石田京子, 舟場保之 (監訳) (翻訳, レザ・モサイエビ)『カントと人権』法政大学出版局, pp. 1-455, 2022/8/25

4. 口頭発表

舟場保之 「法治平和主義とは無関係な解釈についての批判的考察」, 第 24 回 handai metaphysica 研究例会, handai metaphysica,大阪大学(オンライン), 2023/3/13

舟場保之 「共同討議「遂行的矛盾について」異議申し立てと遂行的矛盾」, 第 13 回大阪哲学ゼミナール, 大阪哲学ゼミナール, 大阪大学(オンライン), 2023/1/14

舟場保之 「<永遠平和>が道徳性とは無関係なことについて」, 第 12 回大阪哲学ゼミナール, 大阪哲学ゼミナール, 大阪大学(オンライン), 2022/9/27

Funaba, Yasuyuki, “Über zwei Gründe, warum stehende Heere mit der Zeit ganz abgeschafft werden müssen”, 2. Supranationales Philosophie Kolloquium Frankfurter Tag,Supranationales Philosophie Kolloquium,Johann Wolfgang Goethe Univestitaet (ハイブリッド), 2022/9/15

Funaba, Yasuyuki, “Über zwei Gründe, warum stehende Heere mit der Zeit ganz abgeschafft werden müssen”, 2. Supranationales Philosophie Kolloquium Essener Tag,Supranationales Philosophie Kolloquium,Universitaet Duisburg-Essen (ハイブリッド), 2022/9/13

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2025 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:舟場保之

課題番号:22K00034

研究題目:<自由の秩序>を新たに構想し正当化するための理論的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

Kants "Zum Ewigen Frieden - heute", デュースブルクエッセン大学, ヨハン ヴォルフガング ゲーテ大学

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本フイヒテ協会・委員, 2013 年 3 月～現在に至る

嘉目 道人 准教授

1979 年生。2015 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員、近畿大学非常勤講師、2017 年 11 月より大阪大学文学研究科特任講師（常勤）、2019 年 4 月より同准教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：超越論哲学、コミュニケーションの哲学・倫理学

1. 論文

Yoshime, Michihito, “The Second-Person Standpoint and the Fichtean Not-I” *Philosophia Osaka*, 18, Philosophy and History of Philosophy / Studies on Modern Thought and Culture, Division of Studies on Cultural Forms, Graduate School of Letters, Osaka University, pp. 1-11, 2023/3

嘉目道人「行為の記述をめぐるコンフリクトと、二人称性の問題」『メタフュシカ』53, 大阪大学大学院人文学研究科哲学講座, pp. 13-21, 2022/12

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

嘉目道人「行為の記述をめぐるコンフリクトと、二人称性の問題」第 24 回 handai metaphysica 研究例会, 大阪大学大学院人文学研究科哲学講座, 大阪大学(オンライン), 2023/3/13

嘉目道人「Cheryl Misak, Truth, Politics, Morality: Pragmatism and Deliberation, New York/London: Routledge, 2000. (2 章、3 章を中心に)」第 42 回批判的社会理論研究会, 批判的社会理論研究会, 大阪大学(オンライン), 2023/3/11

Yoshime, Michihito, “The Not-I in the Second-Person and the Third-Person Standpoints” 11th Congress of the International Fichte Society, International Fichte Society, Campus Leipzig – FernUniversität in Hagen (対面), 2022/9/30

嘉目道人「初期フヒテの超越論的論証 —「人間精神が決して脱出できない循環」を読み解く試み—」日本シェリング協会第 31 回大会, 日本シェリング協会, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/7/2

5. 受賞歴（2022 年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2026 年度、若手研究、代表者: 嘉目道人

課題番号: 22K12961

研究題目: フヒテの「循環」論証から見る、社会的現実についての規範主義の可能性

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

関西哲学会・委員, 2022年10月～現在に至る

日本フイヒテ協会・委員, 2019年3月～現在に至る

三木 那由他 講師

1985年生まれ。京都大学大学院博士課程修了。博士（文学）。2010年度より日本学術振興会特別研究員（DC1）、2013年度より同特別研究員（PD）を務める。2018～2019年度に大阪大学文学研究科で助教を務めたのち、2020年10月より講師を経て、2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科講師。専攻：哲学哲学史

1. 論文

三木那由他 「推意・意味・意図：グライスにおける推意」『語用論研究』第24号, pp.1-18, 査読有, 2023/3/1

三木那由他 「共同行為のミニマリズム」『哲学の探究』第50号, pp.16-28, 査読無, 2023/3/1

三木那由他 “Concessive Joint Action: A New Concept in Theories of Joint Action” *Journal of Social Ontology*, 第8巻第1号, pp.24-40, 査読有, 2022/9/1

2. 著書（単著・編著）

三木那由他 『会話を哲学する』光文社, p.299, 2022/8/30

三木那由他, 『言葉の展望台』講談社, p.157, 2022/7/19

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

三木那由他 「ドリアンアイスの夜」『小説トリッパー』2023年春季号, pp. 336-337, 2023/3

三木那由他 「おすすめの一冊『トランスジェンダー問題 議論は正義のために』」『じんぶん堂 3周年記念ブックフェア 知の深呼吸 考える みえてくる』, pp. 4-4, 2023/3

三木那由他 「ミナト町にいる言葉の魔術師」2023年劇団☆新感線43周年興行・春公演『ミナト町純情オセロ 月がとつても慕情篇』パンフレット, 2023/3

三木那由他 「安全な場所『作りたい女と食べたい女』」『群像』2023年4月号, pp. 191-195, 2023/3

三木那由他 「心のこる一冊「がまくんとかえるくん」シリーズ」月刊『こどもの本』2023年3月号, pp.1-1, 2023/3

三木那由他 「アライになるためのガイド」『土木學會誌』107巻12号, pp. 10-10, 2022/12

高井ゆと里, 三木那由他, 清水晶子 「トランスジェンダー問題とは何か: 当事者不在の「議論」に抗して」『世界』964号, pp. 229-237, 2022/11

三木那由他 「「トランスジェンダー問題」を語り直す」『群像』, 2022年11月号, pp.292-299, 2022/10

永井玲衣, 三木那由他 「「弱さ」のこと……永井玲衣×三木那由他」『群像』2022年10月号, pp.112-126, 2022/9

三木那由他 「もしも哲学がコミュニケーションであるなら」『現代思想』50巻10号, pp.80-86, 2022/7

三木那由他 「コミュニケーションを遮断する（綿矢りさ著『嫌いなら呼ぶなよ』書評）」『文藝』, 2022年秋季号, pp.492-492, 2022/7

三木那由他 連載「言葉の展望台」『群像』, 2022年5月号～2023年4月号, 2022/4～2023/3 毎月一回

4. 口頭発表

- 三木那由他 「会話を哲学するーコミュニケーションが暴力的になるときー」, 第 42 回ヒューマンライツセミナー, 公益財団法人 鳥取市人権情報センター, 鳥取市役所鳥取市民交流センター (対面), 2023/3/9
- 三木那由他 「言葉が奪われることの意味」, 第 2 回きんきトランスミーティング, きんきトランス・ミーティング/ 同志社大学 FGSS センター, 同志社大学今出川キャンパス (ハイブリッド), 2023/3/4
- 三木那由他 「『狂気な倫理: 「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定』合評会」, 第 9 回臨床哲学フォーラム,, 大阪大学豊中キャンパス (ハイブリッド), 2023/2/11
- 三木那由他 “Gricean Pragmatics According to Himself”, Logic and Engineering of Natural Language Semantics 19,, (ハイブリッド), 2022/11/21
- 三木那由他 「コミュニケーションの公共性と共同的コミットメント」, CVPPP のための哲学フォーラム コミュニケーションってなんだろう?, 信州大学医学部保健学科看護学専攻精神看護学研究, 信州大学医学部 (オンライン), 2022/10/15
- 三木那由他 「コミュニケーションにおける不正義 (シンポジウム「言葉と尊厳」)」, 中部哲学会 2022 年度大会, 中部哲学会, 愛知学院大学名城公園キャンパス (ハイブリッド), 2022/9/24
- 三木那由他 「共同行為のミニマリズム (テーマレクチャー「共同行為」)」, 2022 年度哲学若手研究者フォーラム, 哲学若手研究者フォーラム, (オンライン), 2022/7/23
- 三木那由他 「意味とコミットメント (シンポジウム「言語の意味研究の現在」)」, 関西言語学会第 47 回大会, 関西言語学会, (オンライン), 2022/6/12
- 三木那由他 「私たちが私たちにするもの (久木田水生と共同発表)」, 応用哲学会第十四回年次研究大会, 応用哲学会, (オンライン), 2022/5/28

5. 受賞歴 (2022 年度)

- 三木那由他 2023 新書大賞第 20 位, 会話を哲学する, 中央公論新社, 2023/2
- 三木那由他 紀伊國屋じんぶん大賞 2023 第二位, 『言葉の展望台』, 2022/12
- 三木那由他 大阪大学賞 (若手教員部門), 大阪大学, 2022/11

6. 科学研究費補助金の獲得状況 (研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2027 年度、若手研究、代表者: 三木那由他

課題番号: 22K12960

研究題目: コミュニケーションにおける暴力の分析: 共同行為論の応用

7. その他の外部資金の受け入れ状況 (研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本哲学会・編集委員, 2021 年 7 月～現在に至る

日本哲学会・評議員 , 2021 年 4 月～現在に至る
日本哲学会・大会企画委員, 2020 年 10 月～現在に至る
応用哲学会・学会誌編集委員, 2020 年 10 月～現在に至る
『フィルカル』編集委員, 2020 年 4 月～現在に至る

安西 なつめ 助教

1986 年生。2014 年、順天堂大学大学院医学研究科医学専攻(博士課程)修了。博士(医学)(順天堂大学、2014 年)。2016 年、日本大学短期大学部助教。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科助教。専攻: 西洋哲学/医史学。

1. 論文

安西なつめ “The effect of *imaginatio* on the body as discussed in Northern Europe’s first scientific journal”『待兼山論叢』第 56 号, pp.1-14, 査読無, 2022/12/26

安西なつめ 「17 世紀の医学自然学雑誌に収録された母親の想像(力)が与える作用の稀な例」『メタフシカ』第 53 号, pp.37-44, 査読無, 2022/12/23

安西なつめ “Usefulness of Skin Autofluorescence as a Biomarker of Acute Oxidative Stress in Young Male Japanese Long-Distance Runners: A Cross-Sectional Study” Sports <https://doi.org/10.3390/sports10110180> (registering DOI), 第 10 巻第 11 号, 査読有, 2022/11/16

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

安西なつめ 「医学史事典」『日本医史学会編』, (担当範囲 pp.84-85, 86-87, 102-103, 104-105, 112-113, 140-141, 142-143), 2022/7

安西なつめ「藤本大士『医学とキリスト教』」『化学史研究』49(2), pp. 82-84, 2022/6

4. 口頭発表

安西なつめ 「世界哲学の日イベント 切り開いて見えるもの、見えないもの ―初期近代の医学と「想像の力」―」大阪大学世界哲学の日, 2022/11/26

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2022 年度、若手研究、代表者:安西なつめ

課題番号:20K12908

研究題目:17 世紀における医学自然学雑誌の創刊に関する比較研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

科学技術社会論

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

各種論文作成のためのさまざまな個別指導を、オンラインによる指導を含めて行った。学部生と大学院生が学問的な交流をもてるよう共通の演習および講義を行うとともに、大学院生の論文作成演習への学部生の参加を促し、学部学生の科学技術社会論に対する関心を掘り起こした。

各種プログラムによって研究交流、教育活動及び地域社会との連携活動を行うとともに、国際ジョイントラボの設置により国際連携を進めている。催しには学外から市民も参加した。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022年度5月現在)

教授 1名 教授 1名(兼任) 准教授 0名 講師 0名 助教 0名

教授: 望月 太郎、中村 征樹 (全学教育推進機構・兼任)

1-2-2 在学生 (2022年度5月現在)

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		3	3	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	1	0	0	0	0

*うち留学生 1名、社会人学生 1名

【文学研究科】 現代思想文化学		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		1	2	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 0名、社会人学生 1名

1-2-3 修了生 (2022年度)

大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
-------------------	---------------------------	----------------------------

人文学研究科			
文学研究科	1	2	0

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学（2022年度）

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 0名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況（研究者名、国、所属先）

なし

1-4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧（事業名・主催者・実施期間）

なし

1-4-2 市民向け講座・講演（講座名・主催者・実施日）

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注）3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1：0名 DC2：0名 PD：0名 RPD：0名（計0名）

【文学研究科】 DC1：0名 DC2：0名 PD：0名 RPD：0名（計0名）

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	0	0	0	0	0

文学研究科	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

1-6-3. 業績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】 なし

【文学研究科】 なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 (就職先など、数)

【文学研究科】

[博士前期]

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	0	0	0	0	0	1	1

[博士後期]

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	0	0	0	0	0	2	2

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度～2023 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者および学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

II. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

「阪大ワニカフェ」を 2022 年度は 3 回開催した。21 世紀懐徳堂、医学部付属病院等と連携し、大阪大学の研究者・専門家と市民の対話企画として、阪大ワニカフェ「面白い巨塔」編を開催した(2022 年 12 月 4 日、2023 年 1 月 9 日、3 月 12 日)。また、大阪大学国際共同研究促進プログラム(タイプ B)に採択されている「日本-ASEAN グローバル哲学研究交流ラボラトリー」を通して国際共同研究を行った。ラボの相手方のチュラロンコン大学文学部哲学科に所属する教員と共同で学内外の研究者を交えて、バンコクに拠点を置くシンクタンク Asia Centre が昨年度企画した国際会議「6th INTERNATIONAL CONFERENCE on The COVID-19 Crisis」(オンサイト/オンライン、ハイブリッド方式で 2021 年 9 月 9 日実施。共催でパネルディスカッション「The Use of Metaphors in The COVID-19 Crisis: A Comparison of East and West」を行う)に引き続き、国際会議「7th INTERNATIONAL CONFERENCE on Freedom of Expression in Asia, 4-26 August 2022」に参画し、共催でパネルディスカッション「Philosophical Considerations on

Freedom of Expression in Asia」(オンサイト)を行った。

哲学哲学史専門分野および臨床哲学専門分野との共同で論文集『メタフェシカ』第 52 号を発刊し、国内主要大学に送付した。これは Web 上での公開も行っている。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2-3. 教員の研究活動

望月 太郎 教授

1962 年生。1991 年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程哲学哲学史専攻中退。博士(文学)(大阪大学 1997 年)。徳島大学、東海大学を経て、1998 年 4 月、大阪大学大学院文学研究科助教授。2004 年 4 月、大阪大学大学教育実践センター一助教授、2006 年 11 月同教授、2012 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科教授。2014 年 4 月～2017 年 4 月、大阪大学海外拠点本部教授・ASEAN センター(バンコクオフィス)センター長(学内派遣)。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：フランス哲学、現代思想、社会思想、高等教育論。

1. 論文

望月太郎「国境を越えた学生の教育交流と大学の質保証」『大学教育の質保証と達成度評価：認証評価の近未来を覗く』, pp. 30-45, 2023/3

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

望月太郎「国境を越えた学生の教育交流と大学の質保証—日タイにおける現場での経験と比較から—」『高等教育に関する法と制度の比較研究』プロジェクト研究会(中央大学日本比較法研究所), 2023/3/19

望月太郎“Did Japan’s Former Prime Minister Shinzo Abe well present any value/strategy that could be shared with ASEAN?” BIR Student Association, Faculty of Political Science, Thammasat University, Annual Seminar on “Japan’s Foreign Policy during Shinzo Abe and its Influence on the Southeast Asia Region and Thailand”, 2022/10/22

Taro Mochizuki, Kasem Phenpinant “‘Joke and freedom of expression’ in a Panel Discussion: Philosophical Considerations on Freedom of Expression” Asia Centre’s 7th International Conference 24–26 August 2022—Freedom of Expression in Asia, 2022/8/26

Lara Hofner, Preciosa Regina De Joya, Taro Mochizuki “Histories of Philosophy in a Southeast Asian Perspective, Laboratory (Part1/Part2) – closed meeting”, organised by Lara Hofner and Preciosa Regina De Joya, EuroSEAS, 2022/6/29

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:望月太郎

課題番号:18K00041

研究題目:発展途上国における教育開発のための哲学プラクティス

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

大阪大学国際共同研究促進プロジェクト助成金 (タイプ B) 「日本-ASEAN グローバル哲学研究交流ラボラトリー」

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

Journal of Humanities Therapy, Humanities Institute, Kangwon National University, Korea・編集委員, 2014 年 4 月～現在に至る

中村 征樹 教授

1974 年生。2005 年、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了 (博士 (学術))。東京大学大学院工学系研究科助手、文部科学省科学技術政策研究所研究官、大阪大学大学教育実践センター准教授を経て、2012 年 4 月より大阪大学全学教育推進機構准教授。2007 年 11 月より大阪大学大学院文学研究科准教授を経て 2021 年 10 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻: 科学技術社会論、研究公正、科学技術コミュニケーション、科学技術倫理、科学技術史。

1. 論文

中村征樹, 「科学技術政策の展開—人文・社会科学包摂の意味」, 『法の科学』第 53 号, pp. 98–105, 2022/9

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

中村征樹「論点 学術論文の査読偽装」、『毎日新聞』, 2023/1/25(朝刊)

高瀬堅吉, 中村征樹, 立花浩司, 「<座談会> 従来の科学コミュニケーションの枠を超えるシチズンサイエンスの可能性と今後に向けた対話」『日本の科学者』2023年1月号 Vol.58, pp. 5-16, 2023/1

中村征樹(監修)「倫理の空白II 盗用編 人文・社会科学編」JST 研究倫理教育映像教材, JST, 2023/3

4. 口頭発表

中村征樹「19世紀フランスにおける大衆貯蓄と国家技師」日本科学史学会第69回年会, オンライン, 2022/5/28

中村征樹, 三浦麻子, 市田秀樹, 東島仁, 中村文彦, 山縣芽生, 山根承子「どのような行為が二重投稿として問題視されるのかー研究分野による研究不正の認識の多様性と共通性」, 第7回大阪大学豊中地区研究交流会, 大阪大学, 2022/11/4

中村征樹「研究不正等を防止するための研究倫理教育や、研究機関が取り組むべき事項について」, 文部科学省研究公正推進事業研究公正シンポジウム「研究分野特有の研究府政への対応について」, ベルサール飯田橋駅前, 2022/12/6

Hideki Ichida, Masaki Nakamura, Asako Miura, Jin Higashijima, Toshiya Kobayashi, Shoko Yamane, Fumihiko Nakamura, Mei Yamagata, “A practical and systematic questionnaire survey to promote research integrity in Japan,” Asia Pacific Research Integrity Network Meeting 2023, 早稲田大学, 2023/3/20

Masaki Nakamura, Hideki Ichida, Asako Miura, Jin Higashijima, Toshiya Kobayashi, Shoko Yamane, Fumihiko Nakamura, Mei Yamagata, “Development of a Questionnaire to Assess the Current State of Research Integrity in Japan,” Asia Pacific Research Integrity Network Meeting 2023 Tokyo, 早稲田大学, 2023/3/21

5. 受賞歴 (2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

7-1. 2021年度～2025年度, 国立研究開発法人科学技術振興機構: 科学技術イノベーション政策のための科学, 代表者: 中村征樹

研究題目: 研究分野の多様性を踏まえた研究公正規範の明確化と共有

直接経費 28,000,000円

7-2. 2022年度～2024年度, 日本医療研究開発機構令和4年度研究公正高度化モデル開発支援事業, 代表者: 中村征樹

研究題目: 研究公正の実態把握の高度化に関する研究とその普及に資するシステム実装

研究経費: 直接経費 21,000,000円

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

阪大ワニカフェ代表として、大阪大学医学部付属病院との連携のもと、「阪大ワニカフェ」面白い巨塔編を大阪大学箕尾キャンパスにて3回開催(2022年12月4日、2023年1月9日、2023年3月12日)、企画・運営・進行

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

文部科学省 公正な研究活動の推進に関する有識者会議・委員, 2015年4月～現在に至る
日本学術会議 連携会員, 2017年10月～2023年9月
日本学術会議 史学委員会 科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会 幹事, 2020年12月～2023年9月
日本学術会議 哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会 委員長, 2020年12月～2023年9月
大阪地方裁判所委員会委員, 2021年10月～現在に至る
文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター, 専門調査員, 2022年6月～現在に至る
日本学術会議 科学者委員会学術体制分科会 論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会委員, 2023年1月～2023年9月

11. 外部役員等の引き受け状況

大阪大学教職員組合・中央執行委員, 2021年8月～現在に至る
IDE 大学協会近畿支部・理事, 2021年7月～現在に至る
一般財団法人公正研究推進協会 公正研究専門員(仮称)認定制度検討委員会 委員, 2021年7月～現在に至る
新興出版社啓林館・令和7年度用中学理科教科書編集委員, 2021年5月～現在に至る
大阪大学出版会・出版委員会委員, 2021年4月～現在に至る
一般財団法人公正研究推進協会 研究倫理基盤委員会 委員長, 2020年4月～現在に至る
日本学術振興会・研究公正アドバイザー, 2018年7月～現在に至る
一般財団法人公正研究推進協会 人文社会学系分科会委員, 2016年9月～現在に至る
一般財団法人公正研究推進協会 国際交流委員会 副委員長, 2016年9月～現在に至る
一般財団法人公正研究推進協会 教育プログラム調査委員会 副委員長, 2016年9月～現在に至る
大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学・運営諮問委員, 2016年8月～現在に至る
大阪大学生協同組合・理事, 2016年6月～現在に至る
一般財団法人公正研究推進協会・理事, 2016年4月～現在に至る
化学史学会評議員, 2011年1月～現在に至る

臨床哲学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

2022年度において、教員共同では次の授業を実施した。「倫理学講義：ともに生きるための倫理学」「倫理学演習 III：倫理学のレシピ」「臨床哲学修士／博士論文作成演習」。特に論文作成演習では、各自の研究発表に加えて、アカデミック・ライティングに関する演習として「論文の理解」「問いの設定」「概念の理解」をテーマにした課題発表を行い、より質の高い論文作成と研究課題への接続を促進するようにした。また、臨床哲学フォーラムに向けた事前の勉強会を行い、他分野の人々と関わる臨床哲学活動をより広い視野で理解する機会を設けた。教員個別の授業としては、堀江が「社会哲学講義：コミュニケーションの哲学／演習：古典を使って考える」「哲学対話法 I：ソクラテック・ダイアローグ」、ほんまが「ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎講義／演習」「哲学対話法 II：哲学対話入門」を、小西が「臨床哲学講義：ケアの倫理と臨床哲学／演習：ギリガンを読む」を行った。また、ほんま・高橋綾（人文学研究科講師／人文学林）・佐藤静（非常勤講師）が共同で「倫理学演習 II：臨床的問題を話し合う」を実施した。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員（2022年度5月現在）

教授 1名 教授 1名（兼任） 准教授 1名 講師 0名 助教 0名

教授：堀江 剛

教授：ほんま なほ（兼任）

准教授：小西真理子

1-2-2 在学生（2022年度5月現在）

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		4	1	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	1	0	0	0	0

*うち留学生 1名、社会人学生 0名

【文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		5	1	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	1	0	0	0	0	0

*うち留学生 1名、社会人学生 0名

1-2-3 修了生 (2022 年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	0	1	0

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022 年度)

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 0名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

なし

1-4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注) 3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1: 0名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計0名)

【文学研究科】 DC1: 0名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計0名)

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)
計	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	0	0	0	0	0
文学研究科	0	0	1	0	0	1
計	0	0	1	0	0	1

1-6-3. 業績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕

六郷颯志「不登校における制度的支援の現在：私的経験を交えて」『臨床哲学ニューズレター』第5号, pp.70-77, 査読無, 2023/3/1

〔博士後期〕 なし

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕

六郷颯志「不登校における制度的支援の現在：私的経験を交えて」, 臨床哲学フォーラム, 大阪大学臨床哲学研究室, 大阪大学・豊中キャンパス (対面), 2022/10/19

〔博士後期〕 なし

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 (就職先など、数)

【文学研究科】

[博士前期]

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	0	0	0	0	0	0	0

[博士後期]

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	0	0	0	0	0

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

II. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022年度】

2022年度は、WEB雑誌『臨床哲学ニューズレター』第5号を刊行した。そこで研究室主催「臨床哲学フォーラム」の記録ないしその後の論考として、第5回：人の生と研究をめぐる倫理（特集1）、第6回：『受容と回復のアート』を読む（記録）、第7回：研究者になるということ：研究者と当事者のあいだで（特集2）、第8回：狭間からの呼び声：まちなか相談室「風の舎（いえ）」に集う人々（特集3）を掲載。また関西倫理学会でのワークショップの記録として「生き延びるものの倫理：非規範的なジェンダー・セクシュアリティとボールルーム・カルチャー」（特集4）を掲載。さらに教員が以下の論文・研究発表等を行なった。

堀江は、2022年度の論文・研究報告として「ロボット発言事件を振り返って」（『臨床哲学ニューズレター』第5号、2023/3）を発表した。研究発表として「終末期ケアにおける哲学対話：「オープンダイアログ」を参考にしたワークショップの試み」（国際ワークショップ：医療現場における哲学プラクティス、2022/9/1、Zoom）、「臨床倫理活動を問い直す：組織を含むコミュニケーション・ネットワークの視点から」（日本医学哲学・倫理学会41回大会、2022/10/8、群馬大学、共同発表者：服部俊子）、「病院組織で動き出す倫理：臨床倫理活動調査を通して」（日本生命倫理学会34回大会、2022/11/19、関西学院大学、共同発表者：服部俊子・榎本直樹）を行った。社会貢献活動としては、カフェ進行役「不死の魂」（哲学相談おんころ、2022/5/29、船場生涯学習センター）、カフェ進行役「がんとともに生きる家族」（患者のウェル・リビングを考える会、2022/8/27、Zoom）、多職種連携研修会（SD）進行役「立場とは何か」（患者のウェル・リビングを考える会、2022/9/11、10/9、あすてつぷ KOBE）、セミナー講師「スピノザ『エチカ』を読む：人間に自由意志はあるのか」（カフェフィロ、2022/10/16、Zoom）、哲学プラクティス国際セミナー「スカンジナビアにおける哲学プラクティスと哲学プラクティスの震源としての驚きのコミュニティ」の企画・司会（臨床哲学研究室、2023.3.22、大阪大学&Zoom）を行った。

小西は、2022年度の共編著として、『狂気な倫理——「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定』（晃洋書房、2022/8）（執筆：「まえがき」、第1章『「不幸」の再生産：世代間連鎖という思想の闇」、第4章『「私の親は毒親です」：アダルトチルドレンの回復論の外側を生きる当事者を肯定する』）を出版した。論文として、「私は被害者ではない：問題含みな親の「加害性」への反応をめぐって」（『現代思想』vol.50(9)、2022/7）を発表した。研究発表として、「ケアの倫理と共感を持たぬ者」（ケアの倫理と人文学、2023/1/28、名古屋大学大学院人文学研究科附属町域文化社会センター／名古屋大学高等教育院）を行った。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

哲学プラクティス国際セミナー（講演会）：スカンジナビアにおける哲学プラクティスと哲学プラクティスの震源としての驚きのコミュニティ、2023/3/22

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

第7回臨床哲学フォーラム：研究者になるということ——研究者と当事者のあいだで、2022/6/1

第8回臨床哲学フォーラム：狭間からの呼び声——まちなか相談室「風の舎」に集う人々、2022/10/19

第9回臨床哲学フォーラム：狂気な倫理：『愚か』で『不可解』で『無価値』とされる生の肯定、2023/2/11

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

『臨床哲学ニューズレター』第5号、2023/3

2-3. 教員の研究活動

堀江 剛 教授

1961年生。2001年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程（臨床哲学専攻）単位取得退学。博士（文学）（大阪大学、2003年）。2004年、広島大学総合科学部助教授、准教授、教授、2016年4月より大阪大学文学研究科教授を経て、2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：哲学／倫理学／臨床哲学

1. 論文

堀江剛「ロボット発言事件を振り返って」『臨床哲学ニューズレター』第5号, pp.5-8, 査読無, 2023/3/1

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

堀江剛, 服部俊子, 榎本直樹「病院組織で動き出す倫理: 臨床倫理活動調査を通して」, 日本生命倫理学会 34 回大会, 日本生命倫理学会, 関西学院大学(対面), 2022/11/19

堀江剛, 服部俊子「臨床倫理活動を問い直す: 組織を含むコミュニケーション・ネットワークの視点から」, 日本医学哲学・倫理学会第41回大会, 日本医学哲学・倫理学会, 群馬大学(対面), 2022/10/8

堀江剛「終末期ケアにおける哲学対話: 「オープンダイアログ」を参考にしたワークショップの試み」, 国際ワークショップ: 医療現場における哲学プラクティス, 哲学相談おんころ, (オンライン), 2022/9/1

5. 受賞歴（2022年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

哲学プラクティス国際セミナー(講演会): スカンジナビアにおける哲学プラクティスと哲学プラクティスの震源としての驚きのコミュニティ, 大阪大学豊中キャンパス, 2023/3/22

9. 地域連携による研究活動状況

テッドク: スピノザ『エチカ』を読む: 人間に自由いしはあるのか(セミナー講師)、主催: カフェフィロ、2022/10/16

多職種連携研修会: 立場とは何か(SD 進行役)、主催: 患者のウェルリビングを考える会、2022/9/11, 10/9

がんカフェ: がんとともに生きる家族(哲学カフェ進行役)、主催: 患者のウェルリビングを考える会、2022/8/27

おんころカフェ: 不死の魂(哲学カフェ進行役)、主催: 哲学相談おんころ、船場生涯学習センター、2022/5/29

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

ほんま なほ 教授

1970年生。大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。文学修士（大阪大学）。大阪大学大学院文学研究科哲学講座助手、同講師を経て、2005年4月に大阪大学コミュニケーションデザイン・センター講師に着任し、現在まで文学研究科を兼任。2006年4月同センター准教授、2020年8月よりCOデザインセンター教授。専攻：哲学／倫理学／臨床哲学

1. 論文

ほんま なほ 「わたしたちは いきのびなくてもよいもの だった」『臨床哲学ニューズレター』第5号(臨床哲学研究室), 文学研究科臨床哲学, pp. 131-151, 2023/3

ほんま なほ 「あらがう、りんしょう、てつがく」『臨床哲学ニューズレター』第5号(臨床哲学研究室), pp.9-28, 2023/3

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

ほんま なほ 「民衆の音楽 あそびと即興」,「他者・音楽・研究」会, 大阪大学COデザインセンターCOデザインスタジオ(ハイブリッド), 2023/3/4

5. 受賞歴（2022年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本哲学プラクティス学会・運営委員, 2018年8月～現在に至る

アートミーツケア学会・理事, 2006年10月～現在に至る

小西 真理子 准教授

1984年生。2014年、立命館大学大学院先端総合学術研究科一貫制博士課程修了。博士（学術）（立命館大学、2014年）。日本学術振興会特別研究員PD、RPD、2018年4月より大阪大学大学院文学研究科講師、2021年4月より同准教授を経て2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科現職。専攻：倫理学／臨床哲学

1. 論文

小西真理子「私は被害者ではない——問題含みな親の『加害性』への反応をめぐって」『現代思想』vol.50(9)、青土社、pp.126-180, 2022/7

小西真理子「研究者と実践との間を問う(大会報告:高橋綾・桂ノ口結衣「哲学プラクティスの倫理」の記録)」『思考と対話』第4巻、pp.81-104, 査読無, 2022/7/31

2. 著書（単著・編著）

小西真理子, 河原梓水(共編著)『狂気な倫理——「愚か」で「不可解」で「無価値」な生の肯定』晃洋書房, (担当箇所:「まえがき」pp.i-ix, 第1章『不幸』の再生産——世代間連鎖という思想の闇pp.3-24, 第4章『私の親は毒親です』——アダルトチルドレンの回復論の外側を生きる当事者を肯定する〔共著者:高倉久有〕)pp.68-90, 2022/8

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

小西真理子「ケアの倫理と共感を持たぬ者」, ケアの倫理と人文学, 名古屋大学大学院人文学研究科附属超域文化社会センター、名古屋大学高等教育院, 名古屋大学(対面), 2023/1/28

5. 受賞歴（2022年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019年度～2022年度、若手研究、代表者:小西真理子

課題番号:19K12922

研究題目:嗜癖の関係性と家族の「病理」をめぐる臨床哲学的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

関西倫理学会・委員, 2019年11月～現在に至る

関西倫理学会・編集委員, 2019年11月～現在に至る

中国哲学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

2021年度と同様であるが、大学院生に関しては、それぞれの研究課題のもと考察を深めるとともに、国内外の研究交流会及び学会において、積極的に口頭発表や論文を投稿するなど、研究のキャリアを高めるよう指導した。なお、学生指導の成果の一つとして、博士後期課程の六車楓さんが第13回「日本学術振興会育志賞」(2023/1)を受賞した。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022年度5月現在)

教授 1名 准教授 0名 講師 1名 助教 0名

教授：湯浅 邦弘
講師：辛 賢

1-2-2 在学生 (2022年度5月現在)

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		0	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 0名、社会人学生 0名

【文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		0	2	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 0名、社会人学生 0名

1-2-3 修了生 (2022年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
--	-------------------	---------------------------	----------------------------

人文学研究科			
文学研究科	0	0	1

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022 年度)

【人文学研究科】 0 名

【文学研究科】 0 名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

計 0 名

1-4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注) 3 年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1 : 0 名 DC2 : 0 名 PD : 0 名 RPD : 0 名 (計 0 名)

【文学研究科】 DC1 : 1 名 DC2 : 0 名 PD : 0 名 RPD : 0 名 (計 1 名)

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	1(1)	0(0)	2(2)	0(0)	0(0)	3(3)
計	1(1)	0(0)	2(2)	0(0)	0(0)	3(3)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	0	0	0	0	0
文学研究科	0	0	1	3	0	4
計	0	0	1	3	0	4

1-6-3. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

六車楓「清華簡『五紀』第二一部分の思想的特徴：病因論と疾病観の観点から」『中国研究集刊』第 68 号, pp.45-65,査読有, 2022/8/1

六車楓「清華簡『五紀』の身体観：第一八部分を中心に」『中国研究集刊』第 69 号, pp.219-239,査読有, 2023/3/29

六車楓「天野総一「五井蘭州の和学—『勢語通』の改稿過程を通して—」(『国語と国文学』第九七巻第七号、二〇二〇年)『懷徳』第 91 号, pp.71-73,査読有, 2023/1/31

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

六車楓「『五紀』第一八部分における四方・二十八宿・身体の関係」, 中国出土文献研究会第 75 回研究会, 中国出土文献研究会, (オンライン), 2022/9/23

六車楓「清華簡『五紀』に見える身体と疾病の記述について」, 科研費基盤 B「東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開: 鬼系病因論の起源と思想的水脈」研究会, キャンパスプラザ京都 6F の立命館サテライト教室 (ハイブリッド), 2022/7/16

六車楓「中国医学と酒」, NPO法人大阪府北部コミュニティカレッジ総合文化を学ぶ科, 豊中市立文化芸術センター多目的室 (対面), 2023/2/14

六車楓「古代中国の身体観」, 一般社団法人中央政策研究会 2023 年度第 1 回研究セミナー「古代中国の世界観と身体観」講演会, 一般社団法人中央政策研究会, 参議院議員会館 (対面), 2023/3/2

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

1-6-4. 受 賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

六車楓 第 13 回「日本学術振興会育志賞」, 独立行政法人日本学術振興会 2023/1

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	1	0	1
計	1	0	1

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】

六車楓、清華簡『五記』『行称』『病方』から考える中国古代の身体観・病気観、湯浅邦弘・浅見洋二・大形徹

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路（就職先など、数）

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	0	0	0	0	0	0	0

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	1	0	1	0	1

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】 なし

【文学研究科】 なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

II. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

研究交流会・学会を通じて教員・学生とも積極的に参加し、研究成果を公表するなどの研究活動を行った。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

大阪大学中国学会『中国哲学研究集刊』第 69 号（2023 年 3 月）

2-3. 教員の研究活動

湯浅 邦弘 教授

1957 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退。博士（文学、大阪大学、1997 年）。北海道教育大学講師、島根大学助教授、大阪大学助教授、2000 年 4 月より同教授を経て 2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。

（2023 年 3 月定年退職）2011 年 7 月、大阪大学功績賞（社会・国際貢献部門）受賞。2013 年 7 月、中文デジタルパブリッシング・デジタルアーカイブ国際学会「優秀学術論文賞」受賞。専攻：中国哲学／中国思想史／懷徳堂研究

1. 論文

湯浅邦弘「大阪市公会堂壁記の成立—近代文人の相互研鑽について—」『中国研究集刊』第 69 号, pp.17-40, 査読有, 2023/3/29

湯浅邦弘「遺墨に見る漢学の伝統—前田豊山・西村天因の書—」『大阪大学文学研究科紀要』第 63 巻, pp.1-60, 査読無, 2023/2/28

湯浅邦弘「懷徳堂の孔子祭」『懷徳堂研究』第 14 号, pp.19-32, 査読有, 2023/2/28

湯浅邦弘「懷徳堂の講義と蔵書」『懷徳』第 91 号, pp.18-35, 査読有, 2023/1/31

湯浅邦弘「清華簡『五紀』に見える黄帝・蚩尤伝承—王権の由来と正当性—」『中国研究集刊』第 68 号, pp.25-44, 査読有, 2022/8/1

2. 著書（単著・編著）

湯浅邦弘, 鶴間和幸, 藤田勝久他『アジア人物史第 1 巻』集英社, pp. 313-376, 2023/1/31

湯浅邦弘『西村天因旧蔵印』大阪大学人文学研究科, 51p., 2022/9/30

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

湯浅邦弘「幻の御講書始—西村天因「詩経大雅仮楽篇講義」—, 科研報告会, 科研基盤B「日本近代人文学の再構築と漢学の伝統—西村天因関係新資料の調査研究を中心として—」, 大阪大学(対面), 2023/3/27

湯浅邦弘「大阪市公会堂壁記の成立—関西文人の相互研鑽について—」, 科研報告会, 科研基盤B「日本近代人文学の再構築と漢学の伝統—西村天因関係新資料の調査研究を中心として—」, 大阪大学(対面), 2022/10/30

湯浅邦弘「懐徳堂の孔子祭」, 孔子を祭る—日本における孔子祭典—, 公益社団法人日本易学連合会・二松学舎大学, 二松学舎大学(ハイブリッド), 2022/7/16

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2022 年度、基盤研究(B) 一般、代表者:湯浅邦弘

課題番号:19H01193

研究題目:戦国秦漢簡牘の総合的研究—安大簡・清華簡・上博簡・北大簡を中心として—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本儒教会・評議員, 2016 年 4 月～現在に至る

中国出土文献研究会・会長, 2012 年 4 月～現在に至る

東方学会・学術委員(東方学査読委員), 2011 年 7 月～現在に至る

懐徳堂研究会・代表, 2000 年 4 月～現在に至る

中国出土資料学会・理事, 1989 年 4 月～現在に至る

辛 賢 講 師

1967 年、韓国ソウル生。2002 年、筑波大学大学院哲学・思想研究科博士課程修了。博士(文学)。日本学術振興会外国人特別研究員(筑波大学)、2004 年 4 月大阪大学大学院文学研究科講師を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科現職。専攻:中国哲学、漢代易学

1. 論文

辛賢 「『易学啓蒙』試論—明著策を中心に—」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 63 巻, pp.61-84, 査読無, 2023/2

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2022 年度、基盤研究(C)、代表者:辛賢

課題番号:20K00052

研究題目:宋学形成における象数学の位置—南宋易学を中心に—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本道教学会・理事, 2012 年 1 月～現在に至る

三国志学会・評議員, 2006 年 7 月～現在に至る

インド学・仏教学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

設定した目標に向けて講義・演習を行ない、学部生の二次文献も含めた読解力の向上のため、授業・授業外での指導に多くの時間をかけた。また学問的な相互交流を促進するために、論文作成演習の授業を有効に使い、教員、大学院生、学部生の垣根を超えた全員参加型の議論・情報交換の場を、より一層充実させた。2020年度以降は、学部一年生向けに行なっている共通教育科目の内容を更に専門化した講義科目を新設し、それをマルチリンガル・エキスパート養成プログラムに紐付けることによって、広く専門内外の学生が分野横断的な視座から議論できる場を提供している。また2022年度の終わりには、ヴェーダ学分野で、広く研究者・学生を集めたワークショップ（以下II. 2-2-2を参照）を開催し、当研究室の教員および複数の外部講師による連続講義の場を設定し、学生が更に知見を深め、読解力を磨くための機会を提供した。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員（2022年度5月現在）

教授 1名 准教授 0名 講師 1名 助教 0名

教授：堂山 英次郎

講師：名和 隆乾

1-2-2 在学生（2022年度5月現在）

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		0	1	0	0	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 0名、社会人学生 0名

【文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		2	3	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	1	0	0	0	0

*うち留学生 1名、社会人学生 1名

1-2-3 修了生（2022年度）

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	1	0	1

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学（2022年度）

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 0名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況（研究者名、国、所属先）

Michael Witzel、アメリカ合衆国、ハーヴァード大学

計 1名

1-4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧（事業名・主催者・実施期間）

なし

1-4-2 市民向け講座・講演（講座名・主催者・実施日）

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

富田 真理子

【学術振興会特別研究員】 注）3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1：0名 DC2：0名 PD：0名 RPD：0名（計0名）

【文学研究科】 DC1：0名 DC2：1名 PD：0名 RPD：0名（計1名）

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)
文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	0	0	0	1	1
文学研究科	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	1	1

1-6-3. 業績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

都築みのり「ヴェーダ文献における *mitrām as/bhū —idām bhū* 構文に合致する表現として」『待兼山論叢』第 56 号, pp.31-51, 査読有, 2022/12/26

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

都築みのり「ヴェーダ語の名詞 *mitrā*「同盟;同盟者;ミトラ神」を巡って ——ある述語構文の解釈を中心に——」, 第 7 回若手研究者フォーラム, 大阪大学人文学研究科, 大阪大学(ハイブリッド), 2023/3/24

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

都築みのり、第 7 回 人文学研究科・優秀若手研究者奨励賞、大阪大学大学院人文学研究科、2022 年度

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	1	0	0
計	1	0	1

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】

野口 眞戒『日本の近世戒律復興運動における儒学とのかかわり』、

審査教員：堂山 英次郎（主査）、湯淺 邦弘、名和 隆乾

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路（就職先など、数）

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	1	0	0	0	1	0	0	1

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	1	0	0	0	1	0	1

1-7-3. 専門分野出身の研究者

（大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者）

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

（2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について）

計 0 名

【人文学研究科】：0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】：0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

学内外の研究会・学会へは、教員及び学生の多くが積極的に参加し、また国内外の研究者・学術機関との交流も活発に行なった。教員は、積極的に学会発表及び学術雑誌への投稿を行った。学生については、論文作成演習の授業（上記 I. 1-1.）の中で予備発表・予備議論を行なうことで、論文の質を高めるべく努めた。その他特記すべき活動として以下のものがある。1名の教員は、2020年度から引き続き研究代表者として科研費（基盤 C）を継続中である。また同教員は2022年度に、ドイツの世界宗教出版から継続出版中である世界の聖典翻訳シリーズの続編の共著訳者として、*Der Rig-Veda: Das heilige Wissen. Sechster und siebter Liederkreis*, Berlin, 2022/11: Verlag der Weltreligionen を出版した。別の教員は2つの科研費（基盤 C）において、それぞれ2020年度および2021年度から引き続き研究分担者を務める一方、2022年度からは新たに科研費（若手研究）を研究代表者として獲得した。学生については、博士後期課程の学生の2名が、大阪大学の「学際融合を推進し社会実装を担う次世代挑戦的研究者育成プロジェクト生」に採用され、研究費を獲得した。またそのうち1名の学生は、2022年度人文学研究科・研究推進室主催の太7回若手研究者フォーラムにおいて口頭発表を行い、優秀若手研究者奨励賞を受賞した（上記 I. 1-6-4.を参照）。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

「インド学およびインド神話に関するワークショップ ——インド学を未来へつなぐために——」

開催日:2022年3月10日、11日

開催場所:大阪大学基礎工学国際棟

開催形式:ハイブリッド開催

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2-3. 教員の研究活動

堂山 英次郎 教授

1972年生。大阪外国語大学外国語学部卒、東北大学大学院文学研究科博士後期3年の課程単位取得退学。文学修士（東北大学）、博士（文学、東北大学）。京都大学人文科学研究所助手を経て、2004年4月大阪大学大学院文学研究科講師、2014年9月同研究科准教授、2019年4月より同研究科教授、2022年4月より人文学研究科教授。2007年日本南アジア学会第1回学会賞受賞、2008年第50回日本印度学仏教学会賞受賞。

1. 論文

Dōyama, Eijirō “Society 5.0, Digital Humanities, and Indology,” in: *Proceedings of 4th International Seminar for the Promotion of International Exchange: International Exchange in the Age of Society 5.0*, International Affairs Office, School of Letters/Graduate School of Humanities, Osaka University, pp. 1-3, 査読無, 2023/3/31

- 川村悠人・堂山英次郎(共著)「古代インドにおける語源学について」『ブラフマニズムとヒンドゥイズム 第1巻: 古代・中世インドの社会と思想』(藤井正人, 手嶋英貴 編), 法蔵館, pp.325-354, 査読無, 2022/12/25
- 堂山英次郎「古代インドの捨て子伝説 ――その特徴と象徴」『ブラフマニズムとヒンドゥイズム 第2巻: 第古代・中世インドの宗教と実践』(藤井正人, 手嶋英貴 編), 法蔵館, pp. 17-45, 査読無, 2022/12/25
- 堂山英次郎「セッション No. 1 の発表に対するコメント」『日本佛教学會年報』第 86 巻, pp.259-266, 査読無, 2022/8/31

2. 著書 (単著・編著)

- Dōyama, Eijirō, Mohammad Moinuddin(共著), *Proceedings of 4th International Seminar for the Promotion of International Exchange: International Exchange in the Age of Society 5.0*, International Affairs Office, School of Letters/Graduate School of Humanities, Osaka University, 2023/3/31
- Toshifumi Gotō, Dōyama, Eijirō(共著・共訳), *Rig-Veda. Das heilige Wissen: Sechster und siebter Liederkreis*, Verlag der Weltreligionen, 2022/11, 担当箇所: pp. 11-111; pp. 299-407.

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

- 堂山英次郎, 「誰がヴィシュヴァルーパーを殺したのか? ――インドラとトゥリタ・アープティヤー」, インド学およびインド神話に関するワークショップ ――インド学を未来へつなぐために――, 大阪大学豊中キャンパス・基礎工学国際棟(ハイブリッド), 2023/3/11
- Dōyama, Eijirō, “Society 5.0, Digital Humanities, and Indology”, 4th International Seminar for the Promotion of International Exchange. International Exchange in the Age of Society 5.0: An interdisciplinary Seminar for Young Scholars, International Affairs Office, School of Letters/Graduate School of Humanities, Osaka University, Nakaniwa Meeting Room, Toyonaka Campus, Osaka University(ハイブリッド), 2022/10/26

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 堂山英次郎

課題番号: 20K00051

研究題目: インドラとは何者か? ――古代インドの英雄神に関する総合的研究――

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

「インド学およびインド神話に関するワークショップ ――インド学を未来へつなぐために――」, 2023/3/10-11 (於 大阪大学豊中キャンパス・基礎工学国際棟), 大阪大学人文学研究科・文学部 インド哲学研究室および科学研究費補助金基盤研究(C)「インドラとは何者か? 古代インドの英雄神に関する総合的研究」(課題番号: 20K00051; 研究代表者: 堂山英次郎)の共催

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本印度学仏教学会・理事, 2022年5月～現在に至る

印度学宗教学会・理事, 2020年4月～現在に至る

日本歴史言語学会・事務局長, 2020年1月～現在に至る

インド思想史学会・理事, 2019年4月～現在に至る

日本佛教学会・理事, 2019年4月～現在に至る

インド思想史学会・評議員, 2019年4月～現在に至る

日本歴史言語学会・理事, 2016年1月～現在に至る

日本印度学仏教学会・評議員, 2004年7月～現在に至る

印度学宗教学会・評議員, 2004年6月～現在に至る

名和 隆乾 講師

1984年生。大阪大学文学部卒、文学修士（大阪大学）。博士（文学，大阪大学）。2013年度日本学術振興会特別研究員を経て、2016年4月大阪大学文学研究科助教、2018年10月同特任講師（常勤）、2020年4月より同講師、2022年4月より人文学研究科講師。専攻：インド初期仏教文献学。

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

藤井正人, 手嶋英貴(編), 名和隆乾 他(共著), 『ブラフマニズムとヒンドウイズム 2』, 法蔵館, pp. 73-96, 2022/12

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022年度～2024年度、若手研究、代表者: 名和隆乾

課題番号: 22K12972

研究題目: インド初期仏教における「四苦」説の成立史研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

東洋史学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

2022年度を通じて、総合演習および中国史・東アジア史・中央アジア史の各種ゼミにおいて、教育活動を当初の予定に沿って着実に進められた。

2022年度に院生の発表した研究論文は計3点、国内外の学会・研究会における口頭発表は計10件である。いずれも水準が高く、教員の指導のもとに十分な成果をあげた。

2020年初頭以来の新型コロナウイルスの世界的な流行の影響により、学生の研究活動（特に海外調査や国際学会での研究発表）は例年に比して規模を縮小せざるを得なかったが、本学の研究資源およびオンライン研究指導環境の整備を進めることで、所期の目標はおおむね達成できたと判断できる。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022年度5月現在)

教授 3名 准教授 1名 講師 0名 助教 1名

教授：堤 一昭、松井 太、田口宏二郎
准教授：河上麻由子
助教：新見まどか

1-2-2 在学生 (2022年度5月現在)

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		2	1	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	1	0	0	0	0	0

*うち留学生 1名、社会人学生 0名

【文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		0	2	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	1	0	0	0	0

*うち留学生 1名、社会人学生 0名

1-2-3 修了生 (2022 年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	0	0	0

1—3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022 年度)

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 1名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

計 0名

1—4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

なし

1—5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

馬 婧賢 (中央民族大学)

【学術振興会特別研究員】 注) 3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1: 1名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計1名)

【文学研究科】 DC1: 1名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計1名)

1—6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)
文学研究科	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)
計	1(0)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(0)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	1	4	0	0	5
文学研究科	4	0	0	0	1	5
計	4	1	4	0	1	10

1-6-3. 業績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕

田先卉「大衆消費財としての毛皮—中国河北・北京（北平）における羔皮（ラムスキン）・寒羊皮の生産・消費—」『若手研究者フォーラム要旨集』第7巻, pp. 51-54, 査読無, 2023/3/24

尾崎昇「古代チベット（吐蕃）帝国の税役制度に関する考察」『若手研究者フォーラム要旨集』第7巻, pp. 47-50, 査読無, 2023/3/24

〔博士後期〕なし

【文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

趙浩衍 "The Family, Kinship, and "Confucianization" in Early Modern Vietnam: Confucian-ization and Village and Gender Order as Seen in Vietnamese Genealogies" *Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, 第66巻, pp.76-77, 査読無, 2022/12/

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕

田先卉「大衆消費財としての毛皮」, 第7回若手研究者フォーラム, 大阪大学大学院人文学研究科 研究推進室, 大阪大学 (ハイブリッド), 2023/3/24

尾崎昇「古代チベット（吐蕃）帝国の税役制度に関する考察」, 若手研究者フォーラム, 大阪大学大学院人文学研究科, 大阪大学 (ハイブリッド), 2023/3/24

〔博士後期〕

岡田悠希「清代四川省における移住開発と甘蔗栽培」, 清代档案史料研究会, (オンライン), 2022/7/30

岡田悠希「清末民国初期における四川糖市場について」, 若手ユーラシア史研究会, (オンライン), 2022/10/30

岡田悠希「清末民国初期における四川糖市場について」, 第120回史学会大会 東洋史部会, 史学会, 東京大学 (対面), 2022/11/13

【文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

趙浩衍「近世ベトナムの家族・親族と「儒教化」」, 第66回国際東方学会会議, 東方学会, (オンライン), 2022/5/21

趙浩衍「근세 북부 베트남 여성의 희사(喜捨) 활동에 관한 재검토 (近世北部ベトナム女性の喜捨活動に関する再検討)」, 韓国全南大学校人文学研究院「家族コミュニティ事業団」・韓国女性史学会, 韓国全南大学校 (対面), 2022/6/17

趙浩衍 "A Review of Women's Donation Strategies in Northern Vietnam during the Early Modern Era", Annual Conference of AAWH, Asian Association of World Historians, Jawaharlal Nehru University (ハイブリッド), 2022/10/13

趙浩衍（他）“Tư liệu làng xã với gia đình và Nho giáo ở Việt Nam trong giai đoạn sơ kỳ cận đại（近世ベトナムの村落資料と家族・儒教）” ハンノム研究院（ハイブリッド）, 2023/3/14

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

趙浩衍訳 미타니 히로시・이성시・모모키 시로. 「 주변국」의 세계상-일본・한국・베트남（三谷博・李成市・桃木至朗. 「周辺國」の世界像—日本・韓国・ベトナム）『숭실사학』(崇実史学) 49, pp. 467-494. 2022/12/30

1-6-4. 受賞（受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

なし

1-6-5. 研究助成（受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路（就職先など、数）

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	0	0	0	0	0	0	0

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	0	0	0	0	0

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】新見まどか(2022年10月, 甲南大学文学部)

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022年度の大学院博士前期/後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0名

【人文学研究科】: 0名

<内訳> 技術職 0名 ジャーナリスト 0名 アーティスト 0名 中・高等学校の教員 0名
その他 0名

【文学研究科】: 0名

<内訳> 技術職 0名 ジャーナリスト 0名 アーティスト 0名 中・高等学校の教員 0名
その他 0名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022年度】

2022年度から新たに東洋史学専門分野に所属した堤一昭は、大阪大学附属図書館研究開発室員の活動の一環として、石濱文庫所蔵資料の研究論文2本を公表した。次年度開催予定の大阪大学総合学術博物館での石濱純太郎展の資料選定などの準備も行った。また関西大学 KU-ORCAS 言語交渉研究班で、モンゴル時代中国史に関する口頭発表1件を行い、日本の中等教育歴史教科書の歴史に関する共同研究の論考1本を公表した。

松井太は、科研費(基盤研究B)による活動の一環として、中央アジア出土古代トルコ語行政文書の校訂史料集を英文で準備し、出版母体における査読を経て校正作業中である。また、古代トルコ語社会経済文書と、ティムール朝時代のモンゴル語・トルコ語合璧資料に関する研究論文3本(日本語・英語)を公表した。この他、米インディアナ大学主催の国際学会にオンラインで、イスタンブール大学主催の国際学会および東京外国語大学主催のシンポジウムに対面で参加して研究報告を行なった他、学術雑誌『内陸アジア言語の研究』を主宰して第37号を刊行し、国際的な水準を保つ研究成果の発信に貢献した。

田口は、研究分担者となっている科研費(基盤研究A)研究会において、複数回の研究報告を行うとともにコメンテーターをつとめ(日本語・英語)、8月にはパリで開催された世界経済史会議において、報告を行なった(英語)。3月には、ブネー大学で開催されたワークショップにおいて、報告を行なった(英語)。さらに、研究代表者となっている科研費(基盤研究C)による活動の一環として、日本語および英語著書を執筆中である。

河上は、科研費(基盤研究C)による活動の一環として、梁・隋・唐・呉越の王権と仏教に関する論文を4本、科研費(基盤研究B)の活動の一環として、8世紀日本の遣唐使に関わる論文を1本、合計5本を公表した。また、長期研修としてプリンストン大学に滞在(ビジティング・アソシエイト・プロフェッサーとして)した。滞在期間中(2ヶ月)は国際シンポジウムを開催し、大学院向けの授業を行うとともに、イーストアジアスタディーズにおいてレクチャーを行った(英語)。その他、懷徳堂春季講座と清華大学芸術博物館学術講座(中国語)で報告し、オンライン Webinar Series for Asian Gender Studies 国際シンポジウムのコメンテーターをつとめた。さらに、大阪大学総長特別表彰を受けた。

2022年4月に助教に着任した新見まどか(同年10月に甲南大学に転出)は、2科研費(若手研究)に採択され、五代十国期における国際関係の研究を開始して研究報告を行い(日本語)、後梁・後蜀間の国書を分析した論文1本を公表した。また、中国で出版された唐代藩鎮関連の書籍について、書評1本を公表した。さらに、12月刊行予定の単著の著書についても、執筆と内容の校正などを行った。

2—2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

・中央ユーラシア学研究会（刊行物『内陸アジア言語の研究』）事務局

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

『内陸アジア言語の研究』37号，2022年11月，152pp.（論文5本〔日本語3本・中国語2本〕・書評2本〔日本語・英語各1本〕）

2—3. 教員の研究活動

堤 一昭 教授

1960年生。京都大学文学部卒業、京都大学大学院文学研究科博士後期課程(東洋史学専攻)学修退学。文学修士（京都大学、1988）。大阪外国語大学外国語学部国際文化学科比較文化講座専任講師、同助教授、同准教授、大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2013年6月より同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：東洋史学

1. 論文

堤一昭「石濱文庫所蔵 石濱純太郎の受講・講義ノート類」関西大学東西学術研究所研究叢刊第65号・国際シンポジウム論文集『内藤湖南と石濱純太郎 近代東洋学の射程—内藤・石濱両文庫収蔵資料を中心に』、関西大学出版部、pp.113-137, 査読無, 2023/3/15

堤一昭「『景社紀事』簡介および影印」『懷徳堂研究』第14号, pp.33-67, 査読有, 2023/2/28

堤一昭, 真木康彦, 川西寿弥「[報告] 歴史教科書における重要用語記述とその背景—「産業革命」と「東洋の平和」—」『待兼山論叢・文化動態論篇』第56号, pp.27-57, 査読無, 2022/12/26

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

堤一昭「『元典章』に記された漢語モンゴル語接触の現場(付:阪大博物館・石濱純太郎展の概要)」, 関西大学アジア・オープン・リサーチセンター研究例会 言語交渉研究班1月20日例会, 関西大学アジア・オープン・リサーチセンター, 関西大学、児島惟謙館(対面), 2023/1/20

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本モンゴル学会・理事, 2008年5月～現在に至る

松井 太 教授

1969年生。1999年、大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）（大阪大学）。2001年弘前大学人文学部講師、2004年同助教授、2007年同准教授、2010年同教授。2015年4月大阪大学文学研究科准教授、2017年10月同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。（財）東洋文庫客員研究員。

1. 論文

Matsui, Dai, “An Old Uigur Contract in the Pelliot Collection”, *Bilge Biliglig Bahşı Bitigi: Doğumunun 60. yılında Mehmet Ölmez armağanı*, pp. 433-438, 査読無, 2023/3/31

Matsui, Dai, “Musing on ‘Qubilai’s Testament’”, *Türkçe ve Moğolca çalışmaları sempozyumu: Sir G. Clauson ve Talat Tekin’in katkıları*, pp. 55-67, 査読無, 2022/12/31

松井太, 「クビライ遺訓」小考『内陸アジア言語の研究』第37巻, pp.121-134, 査読無, 2022/11/30

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

松井太 「ポスト=モンゴル諸王朝の書記官房におけるウイグル文字使用の伝統」, シンポジウム「中央アジア・西アジア文書研究の最前線」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所新基幹研究「記憶」のフィールド・アーカイビング: イスラームがつなぐ共生社会の動態の解明」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(対面), 2023/3/18

Matsui, Dai, “Musing on ‘Qubilai’s Testament’”, *Türkçe ve Moğolca çalışmaları sempozyumu: Sir G. Clauson ve Talat Tekin’in*

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020年度～2023年度、基盤研究(B) 一般、代表者:松井太

課題番号:20H01324

研究題目:古文書資料の言語横断的综合分析に基づくモンゴル帝国の支配システムの解明

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

中国国家社会科学基金重大項目「海外藏回鹘文献整理与研究」(20&ZD211)

同「敦煌河西石窟多語言壁題考古史料搶救性調査整理与研究」(22&ZD219)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

東方学会・国際東方学会会議運営委員, 2021年7月～現在に至る

内陸アジア史学会・常任理事, 2021年4月～現在に至る

東方学会・編集委員, 2019年4月～現在に至る

中央ユーラシア学研究会・責任編集, 2017年7月～現在に至る

東方学会・学術委員, 2015年7月～現在に至る

田口 宏二郎 教授

1971年生。1999年、大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)(大阪大学)。2003年大阪大学文学研究科助手、2004年追手門学院大学文学部講師、2008年追手門学院大学国際教養学部准教授を経て、2012年4月大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2018年4月より同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻:中国近世・近代史

1. 論文

なし

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

Taguchi, Kojiro, Ogawa Michihiro, "Terra-nexus or social domains relating to land in China and India: a note for comparative history", Workshop: A Comparison between China and India,,Savitribai Phule Pune University (対面), 2023/3/16

Taguchi, Kojiro, Ogawa Michihiro, "A Sino-Indian comparison of terra-nexus", The 19th World Economic History Congress, IEHA,EHESS(ハイブリッド), 2022/7/28

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019年度～2023年度、基盤研究(C) 一般、代表者:田口宏二郎

課題番号: 19K01018

研究題目: 中華民国南京国民政府期における土地登記事業の制度分析

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

史学研究会(京都大学)・評議員, 2021年4月～現在に至る

河上 麻由子 准教授

1980年生。2008年九州大学大学院博士後期課程単位取得退学。2010年2月に博士(文学)(九州大学)。2012年9月に奈良女子大学助教、2014年6月に同大学准教授を経て、2021年4月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻: 東アジア古代・中世史

1. 論文

河上麻由子 『『阿育王経』が梁武帝の崇仏に与えた影響について』『待兼山論叢』第56巻, pp.1-26, 査読無, 2023/3/1

2. 著書(単著・編著)

河上麻由子他(共著) 佐川英治編『多元的中華世界の形成 東アジアの「古代末期」』臨川書店, pp. 292-316, 2023/2

河上麻由子他(共著)『アジア人物史 2～7世紀 世界宗教圏の誕生と割拠する東アジア』集英社, pp. 237-308, 2023/2

河上麻由子他(共著)『呉越国—10世紀東アジアに華開いた文化国家—』勉誠出版, pp. 176-188, 2022/10

河上麻由子他(共著) 坂上康俊編『古代中世の九州と交流』高志書店, pp. 83-108, 2022/5

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

河上麻由子 「NHK 知恵泉「遣隋使」」NHK, 2022/5

河上麻由子 「NHK 知恵泉「遣唐使」」NHK, 2022/5

4. 口頭発表

河上麻由子 「義江明子 日本古代双系社会の女性君主たち—7世紀末の転換を中心に」へのコメンテーター, Webinar Series for Asian Gender Studies 国際シンポジウム,比較ジェンダー史研究会(オンライン), 2023/3/11

河上麻由子「唐代的中日交流」清華大学芸術博物館学術講座(オンライン), 2022/11/26

Kawakami, Mayuko “Sovereigns as Bodhisattva and Cakravartin”, Workshop – Center for Culture, Society, and Religion, プリンストン大学(対面), 2022/10/25

河上麻由子 「「自他宗唐決疑問」内に引用される承和遣唐使について」, Doctrine and Practice beyond Borders: International Interactions in East Asian Buddhism Numata Visiting Scholar Fund Workshop, プリンストン大学・沼田財団・科学研究費, プリンストン大学(対面), 2022/9/16

5. 受賞歴(2022年度)

河上麻由子 大阪大学総長特別表彰, 2022/11/9

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021年度～2025年度、基盤研究(C) 一般、代表者:河上麻由子

課題番号:21K00808

研究題目:アジアの中の国風文化

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

九州歴史資料館協議会・委員, 2022年6月～現在に至る

鴻臚館跡整備検討委員会・委員, 2021年1月1日～現在に至る

佐賀県吉野ヶ里遺跡古代調査指導委員, 2020年1月～現在に至る

新見 まどか 助教

2015年、大阪大学大学院文学研究科文化形態論専攻(博士課程)修了。博士(文学)。大阪大学大学院文学研究科 招へい研究員を経て、2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科助教(2022年9月退職)。専攻:中国史/唐・五代史。

1. 論文

新見まどか「皇帝並立時代の幕開け——『錦里耆旧伝』所収、後梁・前蜀間国書考」『唐代史研究』第25巻, pp.153-179, 査読有, 2022/8

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

新見まどか「〈書評〉張天虹著『中晚唐五代的河朔藩鎮与社会流動』」『史泉』136, pp. 20-25, 査読無, 2022/7

新見まどか「帝国の維持と滅亡——中国、唐の場合」『鴨東通信』115, pp. 12-13, 査読無, 2022/9

4. 口頭発表

新見まどか「五代後晋・南唐間における捕虜の返還問題」, 第10回アジア史連絡会, 龍谷大学(対面、オンライン併用) 2022/6/25

5. 受賞歴 (2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021年度～2022年度、研究活動スタート支援、代表者:新見まどか

課題番号:21K20043

研究題目:五代十国期における国際関係の分析——十国側史料所収の外交関連文書を中心に

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

西洋史学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

演習をディベート、リサーチ等に分化することによって、大学院、学部における論文作成指導などのシステムを効率的に運用した。また、パワーポイントを用いたプレゼンテーションや英語での演習を積極的に実施した。また、大学院では、他学部、他専修との共同授業「歴史学のフロンティア」の充実をはかり、加えて、研究ジャーナル『パブリック・ヒストリー』の刊行を通じた出版実務の習得、雑誌編集業務の実習も順調に進めた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022年度5月現在)

教授 4名 准教授 1名 講師 1名 助教 0名

教授：秋田 茂、藤川 隆男、栗原 麻子、ナディン・ヘー
准教授：中谷 惣
講師：見瀬 悠

1-2-2 在学生 (2022年度5月現在)

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		8	1	0	0	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 0名、社会人学生 2名

【文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		7	10	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	1	1	0	0	0	0

*うち留学生 2名、社会人学生 1名

1-2-3 修了生 (2022年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	4	1	0

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022年度)

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 3名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

計 0名

1-4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

波部 雄一郎

【学術振興会特別研究員】 注) 3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1: 0名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計0名)

【文学研究科】 DC1: 2名 DC2: 1名 PD: 0名 RPD: 0名 (計3名)

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	3(3)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(3)
文学研究科	3(3)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(3)
計	6(6)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	6(6)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	1	11	0	1	13
文学研究科	4	6	6	0	0	16
計	4	7	17	0	1	29

1-6-3. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕

大畑直也「安原義仁『イギリス大学史—中世から現代—』『パブリック・ヒストリー』第20号, pp.62-65, 査読有, 2023/2/28

杉山暁子「〔書評〕弓削弓子『はじめての西洋ジェンダー史:家族史からグローバル・ヒストリーまで』(山川出版社、2021年)『パブリック・ヒストリー』第20号, pp.68-71, 査読有, 2023/2/28

足立悠輔「戦間期イギリスの帝国防衛方針—海軍の視点を交えて—」『パブリック・ヒストリー』第20号, pp.17-33, 査読有, 2023/2/28

〔博士後期〕なし

【文学研究科】

〔博士前期〕

金田彩「〔書評〕Merlotti, Andrea (2021) Vita quotidiana alla corte dei Savoia: 1663-1831. Capricorno.」『パブリック・ヒストリー』第20号, pp.59-71, 査読有, 2023/2/28

藤崎香奈子「アルテミス・ブラウロニアの奉納目録(IG II2 1514-1531)」『パブリック・ヒストリー』第20号, pp.34-58, 査読有, 2023/2/28

〔博士後期〕

玉村紳「1920年代の日本とインドの化学工業とマジ・ソーダ —日本とインドの化学工業製品の連関について—」『歴史と経済』第258号, pp.1-16, 査読有, 2020/1/11

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕

大畑直也「イギリスの大学の発展—『イギリス大学史』に基づいて—」, 若手セミナー,大阪大学西洋史学会,大阪大学(オンライン), 2022/8/8

大畑直也「19世紀後半のドイツにおける大学財政と大学政策」, 若手セミナー,大阪大学西洋史学会,大阪大学(オンライン), 2022/11/18

大畑直也「トランスインペリアル・ヒストリーの視座から捉え直すアジア系移民 ~中・印・日移民の多面的な役割から見る戦間期の時代性~」, 大阪大学歴史教育研究会,大阪大学歴史教育研究会,大阪大学(ハイブリッド), 2022/12/17

杉山暁子「オーストラリア先住民コミュニティにおけるアボリジナル・アートセンターの意義 —Darwin Aboriginal Art Fair に着目して—」, 第7回若手研究者フォーラム,大阪大学大学院人文学研究科,大阪大学豊中キャンパス(ハイブリッド), 2023/3/24

足立悠輔「戦間期イギリスの帝国防衛—海軍の視点を交えて—」, 若手セミナー,大阪大学西洋史学会,大阪大学(オンライン), 2022/8/8

足立悠輔「ジュネーヴ海軍軍縮会議をめぐる日英米関係」, 若手セミナー,大阪大学西洋史学会,大阪大学(オンライン),
2022/11/18

花田光輝「トランスインペリアル・ヒストリーの視座から捉え直すアジア系移民—中・印・日移民の多面的な役割から見る戦間期の時代性—」, 大阪大学歴史教育研究会 第147回例会,大阪大学歴史教育研究会,大阪大学(ハイブリッド),
2022/12/17

佐藤 武「トランスインペリアル・ヒストリーからみる東アジア経済成長の再考-歴史教育における戦前と戦後の「接続」を目指して-」, 大阪大学歴史教育研究会,大阪大学歴史教育研究会,大阪大学(ハイブリッド), 2022/12/17

佐藤 武「ドイツの歴史教育におけるヴァイマル共和国史の扱い—教科書分析に入る前段階としての第二次世界大戦後のヴァイマル共和国史研究についての報告—」, 若手セミナー,大阪大学西洋史学会,大阪大学(オンライン),
2022/12/2

磯部宗志「1930年代における日英王室外交—1937年秩父宮雍仁親王のジョージ6世戴冠式を事例に—」, 若手セミナー,大阪大学西洋史学会,大阪大学(オンライン), 2022/12/2

磯部宗志「トランスインペリアル・ヒストリーの視座から捉え直すアジア系移民—中・印・日移民の多角的な役割から見る戦間期の時代性—」, 大阪大学歴史教育研究会,大阪大学歴史教育研究会,大阪大学(ハイブリッド), 2022/12/17
〔博士後期〕

野口駿之介「戦間期におけるコミサリオの変容とブラジル経済」, 九州史学会大会 西洋史部会,九州大学,九州大学(ハイブリッド), 2022/12/11

野口駿之介「1920-1930年代におけるブラジルコーヒー産業と経済発展の連関」, 関西イギリス史研究会,関西イギリス史研究会,キャンパスプラザ京都(対面), 2022/3/28

【文学研究科】

〔博士前期〕

藤崎香奈子「古典期アテナイ女性による織物奉納とポリスへの参画—アルテミス・ブラウロニアの奉納目録を中心に—」, 第2回 関西西洋史若手研究者コロキウム, 関西西洋史若手研究者の会, 大阪大学/大阪公立大学(オンライン),
2022/2/13

谷香里奈「15世紀の都市ローマにおけるドイツ社会—Santa Maria dell' Anima と公証人文書に着目して—」, 2022年度イタリア中近世史研究会, イタリア中近世史研究会, 東京大学(ハイブリッド), 2022/8/30

谷香里奈「15世紀の都市ローマ復興—教皇庁帰還後の都市ローマー—」, 関西中世史研究会11月例会, 関西中世史研究会, Zoom(オンライン), 2022/11/19

〔博士後期〕

山内瑞貴「19世紀後半におけるブハラへのインド茶の流通と中央アジアの喫茶習慣」, 第72回 日本西洋史学会大会, 日本西洋史学会, 東洋大学(ハイブリッド), 2022/5/22

山内瑞貴「Distribution of Indian Tea to Bukhara in the Late 19th Century」, Asian Association of World Historians, 5th Conference, Asian Association of World Historians, Jawaharlal Nehru University(ハイブリッド), 2022/10/13

山内瑞貴「19世紀後半インドからブハラへのインド茶の流通」, エスニシティ研究会, エスニシティ研究会, 京都大学(対面), 2023/3/21

小祿隆司「1872年の東アジア海域におけるイギリス船海難と上海イギリス領事—沖縄島で難破したイギリス商船ベナレス号の事例を中心に—」, 第26回ワークショップ西洋史・大阪, 大阪大学西洋史学会, 大阪大学(オンライン), 2022/6/25

小祿隆司「1849年におけるイギリス船の海難と東アジア海域—エリザベス・アンド・ヘンリー号の久米島における海難を中心に—」, 海域アジア史研究会例会, 海域アジア史研究会, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/7/31

小祿隆司「The Politics of Maritime Disasters in 19th Century-East Asia: The British Shipwrecks on the Ryukyu Islands in 1849 and 1872」, Asian Association of World Historians, 5th Conference, Asian Association of World Historians, ジャワハルラル・ネルー大学(ハイブリッド), 2022/10/12

玉村 紳「A trans-imperial economic development between British and Japanese empires with Magadi Soda and

glassware in the interwar period. —The conjunctural link of the British colonial development and trans-Indian Ocean trade—”, Asian Association of World Historians, 5th Conference, Asian Association of World Historians (AAWH), India International Centre (IIC), New Delhi (ハイブリッド), 2022/10/13

森井一真「18・19世紀転換期イギリス下院におけるスコットランド選出議員の西インド利害 — 奴隷貿易廃止法案に対する投票行動に着目して」, 第72回 日本西洋史学会大会, 日本西洋史学会, 東洋大学 (オンライン), 2022/5/22

森井一真「イギリス帝国における奴隷貿易廃止の受容と抵抗 — 1790年代の奴隷貿易廃止法案に「反対」した人々から」, 第144回 大阪大学歴史教育研究会 例会, 大阪大学歴史教育研究会, 大阪大学 (オンライン), 2022/6/18

森井一真 “Changing British Colonial Reforms and ‘Gradual’ Abolition: Powerless Two Governors in the Early Nineteenth Century”, Asian Association of World Historians, 5th Conference, Asian Association of World Historians, Jawaharlal Nehru University (オンライン), 2022/10/13

福永耕人「報告資料の作り方——技術から考え方まで——」, 若手セミナー第79回例会, 大阪大学西洋史学会, 大阪大学 (オンライン), 2022/6/28

福永耕人「講読報告 キース・ロウ、田中直(訳)「第5部 再生」『戦争記念碑は物語る』白水社、2022年。」, 近現代ドイツ史研究会第20回例会, 近現代ドイツ史研究会, (オンライン), 2022/7/31

福永耕人「西ドイツ軍における軍人像——「制服を着た公民」をめぐる議論から——」, 広島史学研究会大会, 広島史学研究会, 広島大学 (ハイブリッド), 2022/10/29

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

【文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

山内 瑞貴 「19世紀後半における帝政ロシアへのインド茶の流通——中央ユーラシア地域の茶史の視点から」, 味の素食の文化センター 食の文化研究助成, 2020年4月-2022年3月

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	1	1
計	0	1	1

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】

【文学研究科】

大西 吉之 「「寛大な救貧」のシステム——十八世紀ホラント都市における貧民の選別」
審査教員：秋田茂、藤川隆男、中谷惣

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路（就職先など、数）

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	3	0	0	0	3	1	0	4

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	0	0	0	1	1

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】

紫垣 聡（大学院修了者）、大阪大学大学院人文学研究科助教、2023 年 1 月

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】：0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】：0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

西洋史学研究室は、雑誌『西洋史学』、『パブリック・ヒストリー』の編集やワークショップ西洋史・大阪を恒常的に主催するだけではなく、学会や研究会などの事務局や代表者を提供することで、西洋史学や他分野との共同研究の発展に貢献してきた。そのうえ、グローバルヒストリー・セミナーなど、海外からの招聘研究者との学術集会を恒常的に開催し、研究の国際化にも尽力した。教員個人も専門学術誌・研究書への寄稿、国際学会での報告など、活発に研究活動を行った。さらに、日本学術振興会科学研究費補助金をはじめとする競争的外部資金の代表者として、外部資金の獲得も順調であった。大学院生等は、計 6 篇の学術論文、計 29 回の学会報告を公表した。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

グローバルヒストリー・セミナー	2008年度～現在に至る
日本西洋史学会『西洋史学』編集部	2008年度～現在に至る
大阪大学西洋史学会	2008年度～現在に至る
東アジアブリテン史学会（E A A B H）事務局	2011年3月～現在に至る
関西西洋史若手研究者コロキウム	2021年2月～現在に至る

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

第26回ワークショップ西洋史・大阪(2022/6/25)

小禄 隆司 「東アジアにおけるイギリス船海難と上海イギリス領事—1872年沖繩島で海難したイギリス商船ベナレス号の事例を中心に」

谷垣 美有 「戦間期フランスにおける植民地兵の軍事年金問題」

鳥山 剛 「ヘレニズム期マイアンドロス河口域をめぐる紛争の仲裁—ミレトスのデルフィニオン出土碑文の分析」

周藤 芳幸 「ヘレニズム時代エジプトのナイル河川交通と在地社会」

坂本 隼人 「フランス人義勇兵の東部戦線経験」

水田 大紀 「19世紀後半イギリスにおける女性官吏雇用の意義」

大阪大学西洋史学会若手セミナー(学内)

福永 耕人、谷垣 美有 「報告資料の作り方—技術から考え方まで」(2022/6/28)

大畑 直也 「『イギリス大学史』に基づいて」(2022/8/8)

足立 悠輔 「戦間期イギリスの帝国防衛—海軍の視点を中心に」(2022/8/8)

伊丹 千尋 「古代ギリシアにおける女性と宗教—the Sacred and the Feminine in Ancient Greece に基づいて」(2022/8/19)

福永 耕人 (講読) 吉岡潤「ヨーロッパの歴史認識をめぐる対立と相互理解」(2022/8/29)

伊丹 千尋 「古代ギリシアにおける穢れの概念が女性と家に与える影響」(2022/11/17)

足立 悠輔 「ジュネーブ海軍軍縮会議を巡る日英米関係」(2022/11/18)

大畑 直也 「19世紀後半のドイツにおける大学財政と大学政策」(2022/11/18)

磯部 宗志 「1930年代における日英王室外交—1937年秩父宮雍仁親王のジョージ6世戴冠式出席を事例に」(2022/12/2)

佐藤 武 「ドイツの歴史教育におけるヴァイマル共和国史の扱い—教科書分析に入る前段階としての第二次世界大戦後のヴァイマル共和国史研究についての報告」(2022/12/2)

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

『西洋史学』273-274号 学術誌(日本西洋史学会)

『パブリック・ヒストリー』第20号 学術誌(大阪大学西洋史学会)

2—3. 教員の研究活動

秋田 茂 教授

1958年生。1985年、広島大学大学院文学研究科博士課程中退。博士(文学)(大阪大学)2003年。大阪外国語大学外国語学部助手、同講師、同助教授。2003年10月大阪大学大学院文学研究科教授を経て、2022年4月より同大学院人文学研究科 現職。先導的学際研究機構(OTRI)グローバルヒストリー研究部門長、アジア世界史学会(AAWH)会長。専攻：イギリス帝国史・グローバルヒストリー

1. 論文

秋田茂「インドの「緑の革命」、世界銀行と1970年代の石油危機—化学肥料問題を中心に—」『アジア太平洋論叢』第25号, pp.3-21, 査読有, 2023/3/30

秋田茂「近代世界の誕生」と阿部正弘公」『第19回全国藩校サミット福山大会』, pp.38-49, 査読無, 2022/11/19

2. 著書 (単著・編著)

秋田茂, 他 (共著) 『高等学校 世界史探求』(文部科学省検定済教科書 高等学校地理歴史科用), 第一学習社, pp. 142-147, 152-153, 162-163, 166-169, 182-187, 2023/2

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

秋田茂 (インタビュー)「大学入学共通テスト「歴史総合」試作問題から 新科目の理念に沿う出題を考える」『朝日新聞』, 朝刊 27頁, 査読有, 2023/1/19

秋田茂(書評)「ウィリアム・ダルリンブル著(小坂恵理訳)『略奪の帝国 東インド会社の興亡』河出書房新社 2022年」『日本経済新聞』朝刊, 査読有, 2022/9/3

秋田茂(書評)「C.A.ベイリ著、平田雅博・吉田正弘・細川道久訳『近代世界の誕生—グローバルな連関と比較 1780-1914』上・下巻、名古屋大学出版会、2018年」『西洋史学』第273号, pp.49-51, 査読有, 2022/6/30

4. 口頭発表

秋田茂「書評: サラ・ロレンティニ『グローバル開発史—もう一つの冷戦』名古屋大学出版会、2022年」, 冷戦研究会第62回例会, 冷戦研究会, 東京理科大学森戸記念館(ハイブリッド), 2023/3/28

秋田茂「アジア国際経済秩序の形成と変容—脱植民地化から経済開発へ」, 人文学林キックオフ・シンポジウム, 大阪大学人文学研究科, 大阪大学(ハイブリッド), 2023/3/9

Akita, Shigeru “Transwar History and Japan in the Asia-Pacific: Development, Decolonization and Knowledge”, Final Editorial Meeting: HeKKSaGOn Global History from Asian Perspectives, HeKKSaGOn Global History Group, University of Heidelberg, Heidelberg(対面), 2023/1-20-21

秋田茂「司会と論点整理」, キックオフミーティング「エネルギー危機と1980年代のアジア国際秩序—アジア太平洋経済圏の形成を中心に」, 大阪大学グローバルヒストリー研究会, 大阪大学(オンライン), 2022/12/28

Akita, Shigeru “Historical Origins of the 'East Asian Miracle'—A Global Historical Perspective on International Order of Asia in the 1930s and 1950s”, Joint Research Project Workshop: HeKKSaGOn Global History from Asian Perspectives, HeKKSaGOn Global History Group, Osaka University(オンライン), 2022/11/3

秋田茂「イギリス帝国と近現代の大阪—グローバルヒストリーの視点から」, 総合文化を学ぶ科, NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ, 豊中市文化芸術センター(対面), 2022/10/25

Akita, Shigeru “From Decolonization to Economic Development: The Colombo Plan, Jawaharlal Nehru, and Asian Solidarity”, 5th AAWH (Asian Association of World Historians) Conference—Asia and the Globe: Connecting the Past with the Present, Asian Association of World Historians and Indian International Center (IIC), IIC, New Delhi(ハイブリッド), 2022/10/12

Akita, Shigeru “Creating Global/World History from Asian Perspectives”, ICHS (International Congress of Historical Sciences) 2022: Roundtable: How to write a world history in the 21st century, International Society of Historical Sciences, University of Poznan(ハイブリッド), 2022/8/25

Akita, Shigeru “Introduction and 'Green Revolution' in India, the World Bank and the Oil Crises in the 1970s: Focusing on Chemical Fertilizer Problems”, XIX World Economic History Congress (WEHC), PA001: The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s, International Economic History Association, EHESS, Campus Condorcet, Paris(ハイブリッド), 2022/7/29

Akita, Shigeru “Creating Global/World History from Asian Perspectives”, XIX World Economic History Congress (WEHC), PA178: Round table-Resources for teaching and researching global economic history: a new trick from the North ?, International Economic History Association, EHESS, Campus Condorcet, Paris (ハイブリッド), 2022/7/28

Akita, Shigeru “Comments: American Empire in Global History”, International Workshop: Comparative Imperial History: Eurasian and American Perspectives, Slavic-Eurasian Research Center, 北海道大学(ハイブリッド), 2022/6/6

Akita, Shigeru “Comments: American Empire in Global History”, International Workshop: American Empire in Global History with Prof. A.G. Hopkins, OTRI (Institute for Open and Transdisciplinary Research Initiatives), Osaka University, 淡路夢舞台国際会議場(対面), 2022/6/2-4

秋田茂 「報告4 インドの「緑の革命」と石油危機—化学肥料増産問題と国際支援」, 社会経済史学会第91回全国大会 パネル・ディスカッション①「石油危機」の衝撃と 1970 年代アジア国際秩序の変容, 社会経済史学会, 神奈川大学・横浜国立大学(オンライン), 2022/5/1

秋田茂 「インドの「緑の革命」と石油危機—化学肥料増産問題と国際支援」, 社会経済史学会第 91 回全国大会パネル・ディスカッション打ち合わせ会, 大阪大学先導的学際研究機構, 大阪大学(オンライン), 2022/4/9

5. 受賞歴(2022 年度)

秋田茂 大阪大学名誉教授, 大阪大学, 2022/11

秋田茂 紫綬褒章, 内閣府, 2022/11

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【研究会等の活動】

OTRI (Institute for Open and Transdisciplinary Research Initiatives)(共催)

- International Workshop: American Empire in Global History with Prof. A.G. Hopkins, 日本・淡路夢舞台国際会議場(対面), 2022/6/2-4
- 107th Global History seminar: Julia Mariko Jacoby, “Disaster Prevention in Japan 1885-1978: Natural Disasters, Scientific Expertise and Global Transfers of Knowledge”, 大阪大学(オンライン), 2022/4/29
- 108th Global History seminar: A.G. Hopkins, “Globalization and Decolonization”, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/5/27
- 109th Global History seminar: Jonas Ruegg, “Oceanc Frontiers as an Environmental Framework for the History of Global Japan”, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/6/24
- 110th Global History seminar: Yukimura Sakon, “The Launch of the Volunteer Fleet: Late Imperial Russia and “Empire Route”, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/7/22
- 111th Global History seminar: Rien T. Segers, “The Inevitable Brexit: A short History of a Long and Wndy Brexit Road from a UK Perspective”, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/9/30
- 112th Global History seminar: B.R. Tomlinson, “Political economy of development: colonial Asia 1900-2000”, 大阪大学(オンライン), 2022/10/28
- 113th Global History seminar: Timo Sarkka, “Mining and Financial Imperialism: The Central African Copper Bonanza c.1890-1960”, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/11/25
- 114th Global History seminar: Hiromitsu Hashimoto, “Japanese Migrants and the A.K.Hasheem Company at Colombo: Tourists,

Pan-Asianists, and Immigration to Brazil”,大阪大学(ハイブリッド),2022/12/23

・115th Global History seminar: 益田肇「冷戦世界を考え直す—社会競争の時代」,大阪大学(ハイブリッド),2023/1/27

・116th Global History seminar: Wolfgang Schwentker, “The Peculiarities of Japanese History: A Foreign Historian’s Perspective”,
大阪大学(ハイブリッド),2023/3/24

OTRI/京都産業大学(共催)

・8th Global History Lecture: Jeremy Land and Rodrigo Dominguez, “A Convenient Relationship: Portuguese–American Trade before Independence 1700–1775”,日本・京都産業大学(オンライン),2022/4/29

・9th Global History Lecture: Catia Antunes, “Global Entrepreneurial Culture, 1500–1800: Thoughts, Problems and Hypotheses”,
日本・京都産業大学(オンライン),2022/9/30

・10th Global History Lecture: Werner Scheltjens, “North Eurasia as a Unirt of World History”,日本・京都産業大学(オンライン),2022/12/16

Slavic–Eurasian Research Center, Hokkaido University(協賛), International Workshop: Comparative Imperial History: Eurasian
ans American Perspectives,日本・北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター(ハイブリッド),2022/6/5

EHESS(協賛), Round Table: Resources for Teaching and researching global economic history: a new trick from the North ?,フラン
ス・パリ・EHESS(ハイブリッド),2022/7/28

EHESS(協賛), International Workshop: The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s,
フランス・パリ・EHESS(ハイブリッド),2022/7/29

ICHS/NOGWHISTO(協賛),Round Table:How to wrte a world history in the 21st century,ポーランド・ポズナン(ハイブリッ
ド),2022/8/25

AAWH/Indian International Center(共催),Key-note Panel:Asia and the Globe: Connecting the Past with the Present,インド・ニュー
ーデリー(ハイブリッド),2022/10/12–13

HeKKSaGOn Global History Group(共催)

・International Workshop:Global History from Asian Perspectives,大阪大学(オンライン),2022/11/3

・Editorial meeting:Global History from Asian Perspectives,ドイツ・ハイデルベルク大学(対面),2023/1/20–21

【国際共同研究】

HeKKSaGOn Global History from Asian Perspectives, University of Heidelberg(ドイツ), Gettinen University(ドイツ), 秋田茂、ナ
デイン・ヘー

Asia and the Globe: Connecting the Past with the Present, Jawaharlal Nehru University(インド), 秋田茂

Sogang University(韓国), Global/World History Studies and Asia, 秋田茂

Global History Studies, EHESS, Paris(フランス), 秋田茂

The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s, George Washington University(アメリカ),
Georgetown University(アメリカ), University of Washington(アメリカ), University of Cambridge(イギリス), 秋田茂

American Empire in Global History, University of Cambridge(イギリス), 秋田茂

Creating Global History from Asian Perspectives, 南洋理工大学(シンガポール), 秋田茂

Asia and the Globe: Connecting the Past with the Present, University of Qatar(カタール), 秋田茂

2nd BEACH (British–East Asian Conference of Historians) Conference, Institute of Historical research, University of London(イ
ギリス), 秋田茂

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

文部科学省, 科研費「学術変革領域研究(A)」審査委員, 2022年4月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

社会経済史学会・理事, 2022年5月～現在に至る

East Asian Society of British History-Japan・President (会長), 2018年8月～現在に至る

Asian Association of World Historians (AAWH)・President (会長), 2015年5月～2022年10月

北海道大学スラブ研究センター・共同研究員, 2011年4月～現在に至る

日本学術会議・連携会員(史学), 2006年10月～現在に至る

The Royal Historical Society (United Kingdom)・Fellow, 2002年10月～現在に至る

藤川 隆男 教授

1959年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退。文学修士(大阪大学)、MA(ANU)。帝塚山大学教養学部講師、同助教授、大阪大学文学部助教授、同教授を経て、2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：西洋史、とくにオーストラリアの歴史

1. 論文

Fujikawa, Takao “Corpus Construction for Historical Newspapers: A Case Study on Public Meeting Corpus Construction Using OCR Error Correction.” *SN Computer Science*, 第3巻第6号, pp.489-489, 査読有, 2022/11

Fujikawa, Takao “Information Extraction from Public Meeting Articles.” *SN Computer Science*, 第3巻第4号, pp.285-285, 査読有, 2022/5

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

藤川隆男(書評)「アブラム・デ・スワーン著、大平章訳『殺人区画：大量虐殺の精神性』」『西洋史学 = The studies in Western history / 日本西洋史学会 編』273号, pp. 79-81, 2022/8

4. 口頭発表

藤川隆男「オーストラリアン・ルールズ・フットボール: グローバルな世界戦略とローカル・スポーツ」スポーツ史学会第34回大会: スポーツ史学会, スポーツ史学会, 龍谷大学(オンライン), 2020/12

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019年度～2022年度、基盤研究(B) 一般、代表者: 藤川隆男

課題番号: 19H01330

研究題目: オーストラリアの世論形成の歴史的解明: 自然言語処理による公開集会データの分析

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本西洋史学会・代表, 2016年3月～現在に至る

日本西洋史学会・理事, 2015年5月～現在に至る

大阪大学西洋史学会・理事, 2003年6月～現在に至る

パブリック・ヒストリー・編集委員, 2003年6月～現在に至る

西洋史学・編集委員, 1996年4月～現在に至る

栗原 麻子 教授

1968年生。1995年、京都大学大学院文学研究科博士課程（西洋史学専攻）指導認定のうえ退学。博士（文学）（京都大学、1998年）。日本学術振興会特別研究員、奈良大学講師を経て、2004年10月より大阪大学文学研究科助教授、同准教授、2017年4月より同教授。2022年4月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：古代ギリシア史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

栗原麻子, 吉武純夫, 木曾明子(共編著) 『デモステネス弁論集 7』京都大学学術出版会, pp.54-77, 284-346(担当範囲:「ネアイラ弾劾」に関する翻訳、注釈、解題の全体および事項説明の一部), 2022/4

4. 口頭発表

Kurihara, Asako “Female Citizenship and Participation in Classical Athens: The case of Dem. 59”, Workshop: Citizenship and Participation in Classical Athens, 科研基盤 C「リュクルゴス時代の再検討」, 大阪大学, 2022/11/27

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2017年度～2023年度、基盤研究(C) 一般、代表者:栗原麻子

課題番号:17K0173

研究題目:互酬性と民主制—前4世紀アテナイにおける公私関係の変容

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

Workshop: Citizenship and Participation in Classical Athens, 科研基盤 C「リキュルゴス時代の再検討」, 大阪大学, 2022/11/27

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

日本学術振興会専門委員、2022年7月～2023年6月

11. 外部役員等の引き受け状況

(財)懐徳堂記念会・副常務理事, 2022年6月～現在に至る

日本西洋古典学会・常任委員, 2016年6月～現在に至る

日本西洋古典学会・委員、書評委員, 2013年6月～現在に至る

古代学協会・編集参与, 2009年4月～現在に至る

日本西洋史学会・編集委員、運営委員, 2004年10月～現在に至る

Nadin Hee 教授

1977年生。チューリッヒ大学でMA、ベルリン自由大学でPh.D(歴史)2010年。ベルリン自由大学、フンボルト大学、マックスプランク研究所で准教授、2021年7月大阪大学大学院文学研究科教授を経て、2022年4月より同大学院人文科学研究科 現職。専攻：グローバル・ヒストリー、環境史 帝国史 科学技術史

1. 論文

なし

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

NADIN HEE, International Workshop: “Pacific Histories across Species and Borders”, Osaka University Japan, Toyonaka Campus, 2023/3/20-21

NADIN HEE, Panel: “Trans-imperial Perspectives on Indo-East-Asian Entanglements in the First Half of the 20th Century, The 5th Conference of Asian Association of World Historians (AAWH: Hybrid), Indian International Center, New Delhi, India, 2022/10/12-13

NADIN HEE, Roundtable: “What is Global History”, Free University Berlin (online), 2022/9/20

NADIN HEE, “Domesticating Tuna: Tuna Hatcheries and Blue-Green Capitalism”, Max Planck History of Science Institute (online), Berlin, Germany, 2022/5/20

NADIN HEE, Panel: “Historiographical and Conceptual Reflections. Materiality, Space, and Time in Transimperial Histories”,
Conference on Modern Transimperial and Inter-imperial Histories---Forms, Questions, Prospects, Geneva, Switzerland,
2022/5/12

NADIN HEE, 「間帝國的な視座から見た日本統治下の台湾」大阪大学歴史教育研究会, 2022 年度 4 月例会:トランスインペリアル・ヒストリーから考える新たな帝国・植民地史研究, 大阪大学人文学研究科, 2022/4/16

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

中谷 惣 准教授

1979 年生。大阪市立大学大学院文学研究科修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員、信州大学助教、2018 年 4 月大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：ヨーロッパ中世史（イタリア中世史）

1. 論文

Nakaya, So “Credit Practices and Networks in the Medieval Italian City: The Memoriale of Doctor Iacopo di Coluccino of Lucca”
Journal of Medieval History 第 48 巻第 5 号, pp.686-713, 査読有, 2022/12

中谷惣 「中世末期トスカーナの都市と農村の信用ネットワークーヤコポ・コルッチーノ覚書よりー」『イタリア史研究会編『イタリア史のフロンティア』, 昭和堂, pp. 110-124, 査読無, 2022/8

2. 著書（単著・編著）

Nakaya, So, *Raising Claims. Justice and Commune in Late Medieval Italy*, Brepols, p.255, 2022/7

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

中谷惣 “Microcredit in the Shop in Late Medieval Tuscany”, World Economic History Congress, XIX., (5/3/1900), 2022/7/27

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021年度～2025年度、基盤研究(C) 一般、代表者:中谷惣

課題番号:21K00923

研究題目:イタリア中世都市の市民概念に関する動態的研究——周縁者から見る

6-2. 2022年度～2024年度、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))、代表者:中谷惣

課題番号:21KK0215

研究題目:外国人の信用ネットワークにみるイタリア中世都市の市民概念——公証人文書の分析より

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

関西比較中世都市研究会・幹事, 2009年4月～現在に至る

見瀬 悠 講師

1985年生。2016年、東京大学大学院人文社会系研究科(西洋史学専攻)単位取得満期退学。博士(歴史学)(パリ＝エスト大学、2021年)。日本学術振興会特別研究員、パリ＝エスト大学博士課程契約研究員、2020年4月大阪大学大学院文学研究科講師を経て、2022年4月より同大学院人文学研究科 現職。専攻:近世フランス史

1. 論文

見瀬悠 「歓待と差別—近世フランス王国における外国人の処遇をめぐる言説—」『史学雑誌』第131巻第8号, pp.1-36, 査読有, 2022/8

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

見瀬悠 「歓待と差別—アンシャン・レジーム期フランスにおける外国人の処遇をめぐる言説—」, 若手研究者セミナー, 日仏会館 (オンライン), 2022/7/23

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020年度～2023年度、研究活動スタート支援、代表者:見瀬 悠

課題番号:20K22020

研究題目:18世紀フランスにおける外国人と外交官—イギリスの事例を中心に—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日仏歴史学会・幹事, 2020年10月～現在に至る

西洋史学・編集幹事, 2020年4月～現在に至る

人文地理学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

講義・演習では、基礎から先端、応用までの手法・スキルの習得を意識した教育をおこなった。大学院生の研究計画・研究報告については、通常の授業時間ではスケジュールや研究テーマの絞込みをはじめ、研究テーマに即した事項を中心にディスカッションを行い、年度の初めと終わりに演習で発表させ、指導するほか、学会発表や論文の執筆に際しても綿密な指導をおこなってきた。また、地域調査のスキルについては実地での経験を重視する教育をおこなった。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022年度5月現在)

教授 2名 准教授 1名 講師 0名 助教 1名

教授：堤 研二、佐藤 廉也
准教授：井本 恭子
助教：蔣 宏偉

1-2-2. 在学生 (2022年度5月現在)

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		2	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	1	0	0	0	0	0

*うち留学生 1名、社会人学生 0名

【文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		3	2	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	2	1	0	0	0	0

*うち留学生 3名、社会人学生 0名

1-2-3. 修了生 (2022年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D)	大学院 博士後期(D)
--	-------------------	----------------	----------------

		単位修得退学者	博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	3	0	0

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学（2022年度）

【人文学研究科】 1名

【文学研究科】 1名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況（研究者名、国、所属先）

計 0名

1-4. 地域連携

1-4-1 社学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧（事業名・主催者・実施期間）

なし

1-4-2 市民向け講座・講演（講座名・主催者・実施日）

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注）3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1：0名 DC2：0名 PD：1名 RPD：0名（計1名）

【文学研究科】 DC1：0名 DC2：0名 PD：0名 RPD：0名（計0名）

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)
計	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計

人文学研究科	0	0	0	0	0	0
文学研究科	0	3	0	0	0	3
計	0	3	0	0	0	3

1-6-3. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕

松本健佑「国政・地方選挙における投票行動の差異 —同日選挙の投票率の分析から—」『地理学評論』第96巻第2号, pp.174-193,査読有, 2023/3/1

〔博士後期〕 なし

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕

王春群「新潟県における1970年代以降の日本酒製造業の革新」, 日本地理学会春季学術大会, 日本地理学会, 東京都立大学 (対面), 2023/3/25

森田泰史「高等学校地理教育における地理情報—アンケート調査からわかった懸念点とその解決策—」, 日本地理学会春季学術大会, 日本地理学会, 東京都立大学 (対面), 2023/3/26

〔博士後期〕 なし

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

1-6-4. 受 賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 (就職先など、数)

【文学研究科】

[博士前期]

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
1	2	0	0	0	3	0	0	3

[博士後期]

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	0	0	0	0	0

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

II. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要(2022 年度)

【2022 年度】

教員は、科学研究費での助成研究を続けつつ、研究を継続して実施し、国際学会・国際研究集会での発表をおこない、国内外での地域調査を実施した。また、院生は国内外の学会等における発表を実現した。教員による外部資金による獲得研究費の有効活用のほか、大学院生の日本学術振興会特別研究員への応募も積極的におこなっている。このほか、研究室の設備・備品は定期的に点検し、メンテナンスを実施するとともに、旧式化したものは更新している。学内外の共同研究にも積極的に参加してきている。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2-3. 教員の研究活動

堤 研二 教授

1960年生。九州大学大学院文学研究科修士課程修了。文学修士（九州大学、1986）・博士（文学）（九州大学、2009）。佐世保工業高等専門学校助手・講師、島根大学法文学部講師・助教授、大阪大学文学研究科助教授・准教授を経て、2009年11月より同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。地域地理科学学会賞（1997）、昭和シェル石油環境研究助成財団環境研究課題賞（2005）、大阪大学 教育・研究功績賞（2006）、大阪大学 総長顕彰（研究部門）（2015）、大阪府スポーツ少年団功労者表彰（2016）。専攻：人文地理学、とくに社会経済地理学

1. 論文

堤研二 「縁辺地域論再考：山村・炭鉱閉山地域研究からの理論的射程」『地域政策研究』第25巻第3号，pp.23-41,査読無，2023/2/28

堤研二 「ポストアーバン時代と地域的スマートネス」『待兼山論叢（日本学篇）』第56巻，pp.55-70,査読無，2022/12

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

堤研二，他(分担執筆)『地理学事典』日本地理学会，丸善出版，pp. 22-23 398-399，2023/1

4. 口頭発表

堤研二 「潮目が変わった！—新しい社会像と隠岐の島町のこれから—」おきゼミ，隠岐の島町教育文化振興財団，2023/3

堤研二 「新たな都市農村関係と過疎地域：山村・離島・炭鉱閉山地域(2)」，科学研究費(基盤研究B「地域の内発力の成立基盤に関する地理学的研究」)第2回研究集会,科学研究費(基盤研究B「地域の内発力の成立基盤に関する地理学的研究」)研究グループ,白バラビル(群馬県高崎市)(対面)，2022/7/18

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020年度～2022年度、挑戦的(開拓・萌芽)研究、代表者:堤研二

課題番号:20K20725

研究題目:日本における空間秩序・基礎生存諸機能概念の地域計画への影響とその実践的応用

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【研究会等の活動】

AISC、ERIA (ASEAN) (共催), ワークショップ(シンポジウム・研究発表):Asian Inclusive Smart Cities in the Post Covid 19 Arena, 日本(オンライン), 2022/5/19

【国際共同研究】

Asian Inclusive Smart Cities, AISC, ERIA (ASEAN)

Marginal Areas, MARG

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

人文地理学会・理事, 2020年11月～2022年11月

Marginal Areas Research Group・代表, 2019年6月～現在に至る

佐藤 廉也 教授

1967年東京都生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程(地理学専修)中退。博士(文学)(京都大学、1999年)。京都大学総合博物館助手、九州大学大学院比較社会文化研究院助教授(准教授)を経て、2015年4月より大阪大学大学院文学研究科教授を経て、2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻:人文地理学

1. 論文

池谷和信, 米家泰作, 佐藤廉也「新たな焼畑像を探る—佐々木高明の研究を超えて」『季刊民族学』181, 公益財団法人千里文化財団, pp. 92-107, 2022/7

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

佐藤廉也(書評)『米家泰著作(2019)『森と火の環境史—近世・近代日本の焼畑と植生』』地理学評論 第 95 巻第 3 号, pp.234-235, 2022/5

4. 口頭発表

佐藤廉也「森の静かなゴールドラッシュ —エチオピア低地の森林における小規模金採掘現場の踏査行・速報—」, 福岡地理学会例会,福岡地理学会,九州産業大学(対面), 2023/1/22

原裕太, 佐藤廉也「東アジア・中央アジアにおける CIA 運用 U-2 の偵察経路と頻度の推定—CIA 機密解除文書を用いた試行」, 日本地理学会秋季学術大会,日本地理学会,香川大学(対面), 2022/9/23

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2023 年度、挑戦的(開拓・萌芽)研究、代表者:佐藤廉也

課題番号:18K18539

研究題目:系統解析手法を用いた知識の伝達・継承・変容・拡散に関する実証的研究

6-2. 2020 年度～2024 年度、基盤研究(A) 一般、代表者:佐藤廉也

課題番号:20H00046

研究題目:20 世紀中期以降における焼畑と熱帯林の変容メカニズムの地域間比較研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

エチオピア・ガンベラ州における小規模金採掘の研究, Addis Ababa University(エチオピア)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本ナイル・エチオピア学会・評議員, 2015 年 4 月～現在に至る

井本 恭子 准教授

1963 年生。大阪外国語大学大学院外国語学研究科修士課程(イタリア語学専攻)修了。文学修士(大阪外国語大学、1990)。大阪外国語大学外国語学部地域文化学科ヨーロッパ III 講座助手、講師、同助教授、同准教授を経て、2007 年 10 月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：人類学

1. 論文

なし

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

蔣 宏偉 助教

2006年東京大学大学院医学系研究科修了、博士(保健学)。東京大学大学院医学系研究科特任助教、人間文化研究機構・総合地球環境学研究所特任助教を経て、2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科助教。専攻:人文地理学、人類生態学、熱帯モンスーンアジア地域研究

1. 論文

なし

2. 著書 (単著・編著)

田村典江, 蔣 宏偉, ハイン・マレー, (共著) 『人新世の脱「健康」: 食・健康・環境のトリレンマを超えて』昭和堂, pp. 94-114
170-173, 査読無, 2022/5

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴 (2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2017 年度～2022 年度、 基盤研究(C) 一般、代表者:蔣 宏偉
課題番号: 17K02061

研究題目:南中国と周辺地域における地域伝統知を中心とした持続可能開発モデルの共創

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

2022 年 4 月より、アジア経済研究所共同研究・ワンヘルス研究の学際的アプローチ、研究会委員
2022 年 4 月より、人間文化研究機構・総合地球環境学研究所、客員助教

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

英米文学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

講義・演習では基礎から応用までのスキルの習得がなされ、ほぼ当初の計画どおりの成果があがっている。大学院・学部ともにテキストの読解力は向上してきている。また、論文作成に関する指導が細やかに行われた結果、研究発表も活発で、大学院生の学会での口頭発表や学会誌への論文発表などが活発に行われていることがそのことを実証している。研究室の物理的整備などを工夫したこともあり、院生・学部生間の交流も進み、研究室の雰囲気はきわめて良好な状態を保っていると言える。基本的な書籍のさらなる充実および勉学をサポートする設備の充実を目指す計画を進行中である。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022年度5月現在)

教授 2名 准教授 1名 外国人教師 1名 助教 1名

教授：片瀬 悦久、山田 雄三

准教授：森本 道孝

外国人教師：ポール・ハーヴィ

助教：好井 千代

1-2-2 在学生 (2022年度5月現在)

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		1	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 0名、社会人学生 0名

【文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		2	3	0	0	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 0名、社会人学生 0名

1-2-3 修了生 (2022年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	2	1	0

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学（2022年度）

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 0名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況（研究者名、国、所属先）

なし

1-4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧（事業名・主催者・実施期間）

なし

1-4-2 市民向け講座・講演（講座名・主催者・実施日）

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注）3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1：0名 DC2：0名 PD：0名 RPD：0名（計0名）

【文学研究科】 DC1：0名 DC2：0名 PD：0名 RPD：0名（計0名）

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)	2(2)
計	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)	2(2)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	0	0	0	0	0
文学研究科	0	4	2	0	0	6
計	0	4	2	0	0	6

1-6-3. 業績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

篠直樹「闇をすくうーPaul Auster, The Invention of Solitude の想起する語り」『待兼山論叢 文学篇』第 56 号, pp. 61-77, 査読有, 2022/12/26

篠直樹「死者と共に語るーNicole Krauss, The History of Love における分散的ナラティブ」『シュレミール』第 22 号, pp. 39-50, 査読有, 2023/3/31

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕

梅川 桂子 “The fate of Cromwell in the frame of the Shakespearean mirror”, 2022 年度大阪大学・東北学院大学・東北大学合同研究発表会, 大阪大学・東北学院大学・東北大学, 東北大学 (ハイブリッド), 2022/10/22

〔博士後期〕

永田 優衣「All God's Chilun Got Wings における「視線」についての考察」, 2022 年度大阪大学・東北学院大学・東北大学合同研究発表会, 大阪大学・東北学院大学・東北大学, 東北大学 (ハイブリッド), 2022/10/22

永田 優衣「A Moon for the Misbegotten における個と共同体について」, 日本アメリカ演劇学会 第 11 回大会, 日本アメリカ演劇学会, オンライン (オンライン), 2022/8/27

篠直樹「Jonathan Safran Foer, Everything Is Illuminated における物語的クリシェの必然性 (シンポジウムでの発表)」, 第 34 回日本ソール・ペロー協会大会, 日本ソール・ペロー協会, 東京女子大学 (ハイブリッド), 2022/9/3

篠直樹「闇において語ることーNathan Englander, Dinner at the Center of the Earth における困難な倫理と未来への伝達」, 第 34 回日本ソール・ペロー協会大会, 日本ソール・ペロー協会, 東京女子大学 (ハイブリッド), 2022/9/3

篠直樹「Jonathan Safran Foer, Everything Is Illuminated における「神話世界」の詩学」, 第 55 回阪大英文学会, 阪大英文学会 (オンライン), 2022/10/29

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】 なし

【文学研究科】 なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 (就職先など、数)

【文学研究科】

〔博士前期〕

研究職・専門職	就職					進学	その他	合計
	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	0	0	0	0	1	1	2

〔博士後期〕

研究職・専門職	就職					その他	合計
	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	0	0	0	1	1

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】 なし

【文学研究科】 なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0名

【人文学研究科】：0名

<内訳> 技術職 0名 ジャーナリスト 0名 アーティスト 0名 中・高等学校の教員 0名
その他 0名

【文学研究科】：0名

<内訳> 技術職 0名 ジャーナリスト 0名 アーティスト 0名 中・高等学校の教員 0名
その他 0名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022年度】

当該年度中は教員のほぼ全員が科学研究費補助金を獲得し、著書・論文を刊行するなど目覚ましい活躍を続けている。また執筆者に大学院生を含む阪大英文学会叢書はすでに第8巻まで出版を終えているが、2018年度からの阪大英文学会の中堅・若手を中心とした新たな叢書刊行計画が進行中で、原稿の査読などを経て、出版に向けて着々と準備が継続されている。院生の研究発表については、口頭・論文ともに堅調を維持している。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2-3. 教員の研究活動

片瀬 悦久 教授

1965年生。1995年、大阪大学大学院文学研究科博士課程単位修得退学。文学修士（大阪大学、1991年）。博士（文学）（大阪大学、2007年）。北陸大学講師、同志社女子大学講師、助教授を経て、2003年4月大阪大学文学研究科助教授、2013年4月より同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：アメリカ文学

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本ソール・ベロー協会・理事, 2009年4月～現在に至る

関西英語英米文学会・理事, 2008年4月～現在に至る

山田 雄三 教授

1968年生。1990年大阪大学文学部卒業。1995年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。1995-2013年、大阪大学言語文化部、同大学院言語文化研究科講師、助教授、准教授を経て、2013年10月大阪大学大学院文学研究科准教授、2020年4月より同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：英文学／文化理論研究

1. 論文

山田雄三「可動式プライベート時代のコメディ・オヴ・マナーズ—ノーエル・カワードからハロルド・ピンターへ」『コメディ・オヴ・マナーズの系譜—王政復古期から現代イギリス文学まで』, pp.222-243, 査読有, 2022/5/20

山田雄三「研究報告「Poor Tom を喰う—悪魔憑き／祓いの娯楽性についての一考察」」『関西シェイクスピア研究会会報』第43号, pp.7-7, 査読無, 2022/4/20

2. 著書 (単著・編著)

山田雄三, 玉井暲, 末廣幹 他(共著)『コメディ・オブ・マナーズの系譜—王政復古期から現代イギリス文学まで』音羽書房鶴見書店, pp. 222-243, 2022/5

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018年度～2023年度、基盤研究(C) 一般、代表者:山田雄三

課題番号:18K00415

研究題目:近現代英語圏における「二つの文化」論争の系譜をたどる

6-2. 2022年度～2025年度、基盤研究(C) 一般、代表者:山田雄三

課題番号:22K00403

研究題目:実験的ルポルタージュによる文化横断—後期モダニズムの著作実践

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本英文学会・評議員, 2022年6月～現在に至る

日本英文学会関西支部・理事, 2019年4月～現在に至る

森本 道孝 准教授

1978年生。2001年大阪大学文学部卒業。2009年大阪大学大学院文学研究科博士課程単位修得退学。文学修士(大阪大学、2003年)。博士(文学)(大阪大学、2009年)。近畿大学経済学部講師、同准教授を経て、2018年4月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻:アメリカ文学

1. 論文

森本道孝 「David Lindsay-Abair 演劇におけるコミュニケーション」『大学院文学研究科紀要』第 63 巻, pp.59-78, 査読有, 2023/2

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本アメリカ演劇学会・編集委員, 2022 年 8 月～現在に至る

日本英文学会関西支部副事務局長, 2021 年 4 月～2023 年 4 月

日本アメリカ文学会関西支部編集委員, 2021 年 4 月～現在に至る

阪大英文学会・幹事, 2018 年 10 月～現在に至る

日本アメリカ演劇学会・幹事, 2018 年 8 月～現在に至る

ポール・ハーヴィ 外国人教師

1961 年生。1980 年 9 月、Oriell College, Oxford University 入学。1986 年 6 月 Oriell College, Oxford University 卒業退学 (MA, MPhil 取得)。1986 年 10 月、京都大学教養部招聘研究員 (1 年間)。1988 年 4 月、大阪大学言語文化部講師。1990 年 4 月、カナダ商工会議所専務理事(1 年間)。1991 年 4 月、大阪大学言語文化部講師。1999 年 10 月、大阪大学文学部・大阪大学大学院文学研究科外国人教師に着任。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科現職。専攻：シ

1. 論文

なし

2. 著書 (単著・編著)

Stean Anthony (HARVEY, A. S. Paul), *Monday Songs 001-005 New*, pdf, 41p. , 2023/3

Stean Anthony (HARVEY, A. S. Paul), *Stean Anthony, Samawatiwal'ard*, Yamaguchi Shoten, 386p. , 2022/10

Stean Anthony (HARVEY, A. S. Paul), *Monday Songs 083-086*, pdf, 49p. , 2022/8

※Stean Anthony is the penname of HARVEY, A. S. Paul.

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

好井 千代 助教

1959年生。1987年、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。文学修士(大阪大学)。1987年大阪大学文学部助手を経て、2007年4月より大学院文学研究科助教。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科助教。専攻：アメリカ文学。

1. 論文

なし

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

Yoshii, Chiyo, ““Sentient” Fungi: “The Fall of the House of Usher” and the Emerging Germ Theory of Disease”, The Fifth International Edgar Allan Poe Conference: Poe Takes Boston, Poe Studies Association, OMNI PARKER HOUSE, BOSTON (ハイブリッド), 2022/4/9

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021年度～2024年度、基盤研究(C) 一般、代表者:好井千代

課題番号:21K00457

研究題目:文学と生命科学のインターフェイスー「生政治」を超えて

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

ドイツ文学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

研究科においては、ドイツ語によって研究成果を公表できるよう実践的なドイツ語運用力の育成につとめ、新しい研究動向の紹介にも努めた。ヨハネス・ヴァスマー特任講師は、上述のドイツ語運用力の向上のためにドイツ語によるアカデミックライティングの授業を実施した。三谷教授、吉田准教授は、より高度な内容の文献演習を開設するとともに、個別的な論文指導をおこなった。また、研究室所属の学生全員が参加する演習 Forschungskolloquium を開講し、プレゼンテーションとディスカッションを重ねることで知識と問題意識の共有化を図った。学外からは、赤尾光春先生を講師として招き、多彩かつ充実した授業を提供した。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022年度5月現在)

教授 1名 准教授 1名 特任講師 1名 助教 0名

教授：三谷 研爾

准教授：吉田耕太郎

特任講師：ヨハネス・ヴァスマー

1-2-2 在学生 (2022年度5月現在)

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		0	1	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	1	0	0

*うち留学生 1名、社会人学生 0名

【文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		4	1	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 0名、社会人学生 0名

1-2-3 修了生 (2022年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	2	0	0

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学（2022年度）

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 0名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況（研究者名、国、所属先）

なし

1-4. 地域連携

1-4-1 社学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧（事業名・主催者・実施期間）

なし

1-4-2 市民向け講座・講演（講座名・主催者・実施日）

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注）3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1：0名 DC2：0名 PD：0名 RPD：0名（計0名）

【文学研究科】 DC1：0名 DC2：0名 PD：0名 RPD：0名（計0名）

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	0	0	0	0	0
文学研究科	0	0	1	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

1-6-3. 業績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

山本鉄平「躍動する自然—マクス・ヴィルヘルム・マイヤー『地球から月へ』における「科学」をめぐって—」、『独文学報』第 38 号,

pp.7-27, 大阪大学ドイツ文学会, 2022/11

山本鉄平「ルートヴィヒ・ビューヒナー「結語」(『力と物質』より)[解題・翻訳]」、『待兼山論叢(文学篇)』第 56 号, 大阪大学人文学研究科, 2022/12

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕

松尾匠「二つのアナーキズム：ベンヤミンの政治理念に関する比較検証」若手研究者フォーラム/第 6 回, 大阪大学人文学研究科, 大阪大学豊中キャンパス(ハイブリッド), 2022/9/14

〔博士後期〕 なし

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 (就職先など、数)

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	2	0	0	0	2	0	0	2

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	0	0	0	0	0

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】0

【文学研究科】0

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

三谷教授は国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「両大戦間のハイデルベルクにおける人文学知の受容と交流」の交付を受けた研究成果を論文または口頭にて発表した。吉田准教授は、科研費基盤研究(C)「18 世紀的情報空間と健康一健康概念の伝播とその歴史的意味の解明」(2022 年度採択)の成果を発表した。吉田准教授とヴァスマー特任講師は、コンスタンツ大学とデュッセルドルフ大学との共同研究の準備をすすめた。またヴァスマー特任講師は、ならびに日本大学並びに明治大学主催の東西文化交流に関する研究プロジェクトに参加し、研究成果を公表した。大学院博士後期課程学生は、それぞれ博士論文の完成を目指して、口頭発表と論文発表を重ねた。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

阪神ドイツ文学会事務局(2021.4-2023.3)

阪神ドイツ文学会開催(オンライン)2022.7.9

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

大阪大学ドイツ文学 (2022.12.10)

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

独文学報

2-3. 教員の研究活動

三谷 研爾 教授

1961 年生。1987 年、大阪大学大学院文学研究科博士課程中退。博士(文学、大阪大学)。大阪府立大学助手、講師、大阪大学准教授をへて 2008 年 4 月から同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：ドイツ、オーストリア文学および文化研究

1. 論文

三谷研爾「ハイデルベルク逍遙 両大戦間期におけるドイツ文化受容についての覚え書き」『待兼山論叢／文学篇』第 56 巻, pp.1-17,査読無, 2022/12/25

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

三谷研爾(解説)「カフカ『変身』」『ハブスブルク事典』, pp.594-595,査読無, 2023/2/2

三谷研爾(書評)「林寄伸二・村上浩明編『カフカの長編小説』」『独文学報』第 38 巻, pp.75-81,査読有, 2022/11/1

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022年度～2025年度、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))、代表者:三谷研爾

課題番号:22KK0004

研究題目:両大戦間のハイデルベルクにおける人文学知の受容と交流

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

阪神ドイツ文学会・会長, 2021年4月～2023年3月

日本オーストリア文学会・阪神地区幹事, 2015年5月～現在に至る

関西チェコ/スロバキア協会・会長, 2009年4月～現在に至る

大阪大学ドイツ文学会・会長, 2008年1月～現在に至る

吉田 耕太郎 准教授

1970年生まれ。東京外国語大学外国語学部(ドイツ語学科)卒。2007年、東京外国語大学地域文化研究科博士後期課程単位取得退学。学術修士(東京外国語大学)。京都外国語大学、立命館大学、京都大学人文科学研究所等での非常勤講師を経て、2009年4月大阪大学大学院文学研究科准教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻:ドイツ文化史・思想史

1. 論文

吉田耕太郎「健康の啓蒙 ファウスト『健康問答』と養生の言説」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第63巻, 大阪大学大学院文学研究科, pp. 79-96, 2023/2

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022年度～2025年度、基盤研究(C) 一般、代表者:吉田耕太郎

課題番号:22K00465

研究題目:18世紀的情報空間と健康-健康概念の伝播とその歴史的意味の解明

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本独文学会・学会誌編集委員, 2021年5月～現在に至る

阪神ドイツ文学会・庶務幹事, 2021年4月～2023年4月

Wassmer Johannes 特任講師(常勤)

2020年4月大阪大学大学院文学研究科 特任講師(常勤)。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科特任講師(常勤)。

専攻:ドイツ文学/思想史

1. 論文

WASSMER JOHANNES “Prolegomena zu einer Ästhetik des Wartens” *Warten. Konstruktionen von langer und kurzer Dauer in der Literatur*, 査読有, pp.13-28, 2023/3

WASSMER JOHANNES “Melancholie der Präsenz. Hugo Ball zwischen Dada und Deus” *Passages. Scritti in memoria di Mauro Ponzì / Texte in Erinnerung an Mauro Ponzì*, pp. 321- 333, 2023/2

2. 著書(単著・編著)

WASSMER JOHANNES, Luca Viglialoro, *Epistemologien der Geste. Körper, Medien, Künste*, De Gruyter, Introduction, 2023/3

Heike Breitenbach, WASSMER JOHANNES(編著者) *Martin Buber und die Literatur* (『マルティン・ブーバーと文学』), Edition AV, Bodenburg, pp.321-333, 2022/10

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

WASSMER JOHANNES “Mängelwesen und modrige Pilze im Mund? Schrift als Vollzug und als Präsenz” Figuren des Mangels.
Szenen der Gestaltung in Ästhetik, Design- und Kunstpraktiken, 2022/5

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

フランス文学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

- ・講義・演習では、16世紀から現代にかけての幅広い文学テキストを教材としながら、基礎知識および作品分析方法の習得をめざした教育を行った。
- ・大学院生の研究指導においては、各セメスターに1回の研究成果の発表を行い、修士論文・博士論文および学会発表を目標とした教育を実施した。2022年度には下記のいずれも優れた修士論文が提出された。

三原大輝 *L'interprétation des manuscrits fragmentaires des Pensées de Pascal*

菅野梨夏 *Le corps écran et obstacle dans L'Insoutenable Légèreté de l'être*

丸山智大 *Représentations de la mort dans L'Ecume des jours de Boris Vian*

- ・2022年度の博士前期課程修了者3名のうち、1名は博士後期課程に進学し、2名は官公庁に就職した。
- ・2022年度には、下記の講演会を開催した。

2022年11月28日 アニエス・ディソン氏(元大阪大学外国人教師)« Poésie de l'extrême contemporain : Jacques Roubaud, poèmes récents et formes brèves (2021) » (「超現代詩：ジャック・ルーボー、最近作と短い形式について (2021)」)

2023年1月16日 ロリス・ペトリス氏(スイス・ヌーシャテル大学教授)« Transferts, perfectibilité et décadence à la Renaissance, d'Erasmus à Montaigne » (「ルネサンスにおける移転、改善性そして退廃 エラスムスからモンテーニュまで」)

2023年1月12日 ロリス・ペトリス氏(スイス・ヌーシャテル大学教授)« La poésie et les arts à la Renaissance » (「ルネサンスにおける詩と芸術」)

- ・2022年度は留学生1名(フランス、博士後期課程学生)。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022年度5月現在)

教授 1名 准教授 0名 特任准教授 1名 助教 1名

教授：山上 浩嗣

特任准教授：エリック・アヴォカ

助教：平光 文乃

1-2-2 在学生 (2022年度5月現在)

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		2	2	0	0	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 0名、社会人学生 0名

【文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		4	3	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 0名、社会人学生 1名

1-2-3 修了生 (2022年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	3	1	0

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022年度)

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 1名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

計 0名

1-4. 地域連携

1-4-1 社学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

・山上浩嗣「モンテニユが語る老、病、性 『エッセー』における身体の経験」(2022年度 ラスタ教養大学 言葉文化コース、伊丹ラスタホール、2022年11月14日)。

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

和田章男

【学術振興会特別研究員】 注) 3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1: 0名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計0名)

【文学研究科】 DC1: 1名 DC2: 2名 PD: 0名 RPD: 0名 (計3名)

1—6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)
計	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	1	4	0	0	5
文学研究科	0	4	2	0	0	6
計	0	5	6	0	0	11

1-6-3. 業績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕なし

【文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

涌井萌子「レ枢機卿の英雄像-『ジャン＝ルイ・ド・フィエスク伯爵の陰謀』を例に」『GALLIA』第62号, pp. 3-12, 査読有, 2023/3

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

戸田千晶『『Carmen』における barrière について』, 大阪大学フランス語フランス文学第 89 回研究会,大阪大学フランス語フランス文学,大阪大学 (ハイブリッド), 2022/9/24

戸田千晶「プロスペル・メリメの宗教観について」, 研究演習,大阪大学フランス文学研究室,大阪大学 (オンライン), 2022/12/5

中島姫奈「Serpentin Vert における変身 蛇身と禁忌」, 関西学生フランス文学研究会,関西学院大学,関西学院大学梅田キャンパス (ハイブリッド), 2022/8/30

中島姫奈「ドノワ夫人の Serpentin Vert における蛇身の表象」, 日本フランス語フランス文学会関西支部大会,日本フランス語フランス文学会関西支部,関西大学 (対面), 2022/11/26

中島姫奈「ドノワ夫人の Serpentin Vert における好奇心—女性と読書の観点からみる禁じられた女性の好奇心—」, 第7回 大阪大学大学院人文学研究科 若手研究者フォーラム,大阪大学大学院人文学研究科,大阪大学大学院人文学

研究科（ハイブリッド）, 2023/3/24

【文学研究科】

〔博士前期〕

丸山 智大 「ボリス・ヴィアン『日々の泡』における「死」」, 日本フランス語フランス文学会 2022 年度関西支部大会, 日本フランス語フランス文学会関西支部, 関西大学（対面）, 2022/11/26

菅野 梨夏 「ミラン・クンデラ『存在の耐えられない軽さ』における心と身体の二重性」, 日本フランス語フランス文学会 2022 年度関西支部大会, 日本フランス語フランス文学会関西支部, 関西大学（対面）, 2022/11/26

〔博士後期〕

堤崎 暁 「ジョルジュ・サンドの政治・社会思想：その萌芽と深化」, 2022 年度日本ジョルジュ・サンド学会春季研究会, 日本ジョルジュ・サンド学会, 立教大学（対面）, 2022/6/4

堤崎 暁 「ジョルジュ・サンド『黒い町』における上昇志向」, 日本フランス語フランス文学会 2022 年度関西支部大会, 日本フランス語フランス文学会関西支部, 関西大学（対面）, 2022/11/26

涌井萌子 「レ枢機卿の自己表象—マザリナードと『メモワール』を比較して」, 日本フランス語フランス文学会 2022 年度春季大会, 日本フランス語フランス文学会, 立教大学（対面）, 2022/6/4

涌井萌子 「匿名政治パンフレットの計量的分析 —「レ枢機卿のマザリナード」の帰属検証—」, 大阪大学大学院言語文化研究科言語文化共同研究プロジェクト, オンライン, 2023/3/15

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

1-6-4. 受賞（受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

なし

1-6-5. 研究助成（受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

涌井萌子「レ枢機卿のマザリナードを用いた匿名文書におけるレトリック研究」, 日本学術振興会 2022 年度若手研究者海外挑戦プログラム, 2022/9-2023/6

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】 なし

【文学研究科】 なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 (就職先など、数)

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	2	0	0	2	1	0	3

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	1	0	1	0	1

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

- ・2022 年度は、大阪大学フランス語フランス文学会第 89 回研究会を 9 月 24 日に、第 90 回研究会を 3 月 4 日にそれぞれ開催した (いずれも対面とオンライン併用)。なお、第 90 回研究会は、コロナ禍のために 2020 年 3 月から何度も延期していた和田章男教授・岩根久教授の退職記念講演会を兼ねて開催した。2022 年 3 月 4 日、会誌『ガリア』62 号を刊行、9 本の学術論文を収めた。
- ・毎年、関西の大学でフランス文学を研究する大学院生が合同の研究発表会として、「関西学生フランス文学研究会」を開催しているが、2022 年度は対面とオンラインの併用方式にて開催した (主催は関西学院大学文学部フランス文学研究室)。
- ・大学院文学研究科 (フランス文学専門分野) 博士後期課程退学の安達孝信氏が、2022 年 3 月にパリ第 3 大学から博士号を授与された。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

- ・2022年10月22-23日、日本フランス語フランス文学会2022年度秋季大会、大阪大学豊中キャンパス・箕面キャンパス。
- ・2022年11月28日、アニエス・ディゾン氏(元大阪大学外国人教師)講演会、「Poésie de l'extrême contemporain : Jacques Roubaud, poèmes récents et formes brèves (2021)」(「超現代詩:ジャック・ルーボー、最近作と短い形式について(2021)」)
- ・2023年1月16日、ロリス・ペトリス氏(スイス・ヌーシャテル大学教授)講演会、「Transferts, perfectibilité et décadence à la Renaissance, d'Erasmus à Montaigne」(「ルネサンスにおける移転、改善性そして退廃 エラスムスからモンテーニュまで」)
- ・2023年1月12日、ロリス・ペトリス氏(スイス・ヌーシャテル大学教授)講演会、「La poésie et les arts à la Renaissance」(「ルネサンスにおける詩と芸術」)
- ・2023年2月11-12日、「フランス近世の〈知脈〉」第9回研究会、大阪大学豊中キャンパス、対面/オンラインの二元開催。

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

- ・2022年9月24日、大阪大学フランス語フランス文学会第89回研究会、大阪大学豊中キャンパス。
- ・2023年3月4日、大阪大学フランス語フランス文学会第90回研究会(兼・和田章男教授・岩根久教授退職記念講演会)、大阪大学豊中キャンパス。

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

『ガリア』62号、大阪大学フランス語フランス文学会、2023年3月4日刊。

2-3. 教員の研究活動

山上 浩嗣 教授

1966年生。京都大学文学部卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。パリ・ソルボンヌ大学にて文学博士号取得(2010年)。東京大学大学院総合文化研究科助手、関西学院大学社会学部専任講師、同准教授、同教授、大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2015年同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：フランス文学・思想

1. 論文

なし

2. 著書(単著・編著)

山上浩嗣他(共著)『新・フランス語文法(四訂版)』朝日出版社, pp. 88-99, 2023/1

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

山上浩嗣, (事典項目)「モンテーニュ」『啓蒙思想の百科事典』, 日本18世紀学会『啓蒙思想の事典』編集委員会編, 丸善出版, pp.64-65, 査読無, 2023/2

4. 口頭発表

Yamajo, Hirotsugu “《 Mourir lâchement et mollement 》 : Pascal face à la mort idéale selon Montaigne”, 《 Pascal, prophète et résistant 》, colloque du 400e anniversaire de Blaise Pascal, Dominique Descotes, Laurence Plazenet et Laurent Thirouin,

Maison de la culture Clermont-Ferrand(対面), 2023/3/25

山上浩嗣 「『フェイク・スペクトラムー文学における〈嘘〉の諸相』合評会コメント」, 国際編集文献学研究センター主催 出版記念イベント, 成城大学国際編集文献学研究センター, 成城大学(対面), 2023/3/17

山上浩嗣 「モンテーニュが語る老、病、性—『エッセー』における身体の実験」, 2022 年度 ラスタ教養大学 言葉文化コース, 伊丹ラスタホール(伊丹市立生涯学習センター)(対面), 2022/11/14

Yamajo, Hirotsugu “La politique et la morale chez Montaigne et Pascal. Le respect de la loi, même injuste, et l’aversion pour la réforme politique”, Journée d’études du CEIPREM, structure fédérative de recherche de la Sorbonne nouvelle - Paris 3, Sorbonne nouvelle - Paris 3(ハイブリッド), 2022/6/8

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 山上浩嗣

課題番号: 21K00416

研究題目: パスカルとモンテーニュ—『パンセ』の人間学とその起源

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

Etudes interdisciplinaires sur Pascal, Port-Royal, et l’Europe moderne, Université Paris 3 - Sorbonne nouvelle(フランス)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本フランス語フランス文学会・副会長, 2021 年 5 月～現在に至る

AVOCAT ERIC MARC 特任准教授(常勤)

1972 年生まれ。高等師範学校エコール・ノルマル・シュペリウール卒業。ギリシア・ラテン古典文学大学教授資格取得。フランス文学博士。イェール大学(1995-1996 年)、京都大学(2005-2015 年)で教員を務める。フランスのリセでの教員経験もある。2016 年 4 月より大阪大学文学研究科 特任准教授(常勤)。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科特任准教授(常勤)。専攻: フランス文学

1. 論文

AVOCAT ERIC MARC « Satire politique et genres dramatiques pendant la Révolution française - Comédie des mœurs

parlementaires, comédie de mœurs parlementaire », *Gallia*, n° 62, 大阪大学フランス語フランス文学会, pp. 13-23, 2023/3

2. 著書 (単著・編著)

Renaud Bret-Vitoz, Sophie Marchand, AVOCAT ERIC MARC, (国際共著) *Les Lumières du théâtre. Avec Pierre Frantz*, Editions Classiques Garnier, pp. 305-313, 査読有, 2022/9

村田京子, 小野潮, AVOCAT ERIC MARC 他(国際共著)『作家たちのフランス革命』白水社, pp. 163-194 ; 228-242, 査読有, 2022/7

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

AVOCAT ERIC MARC “Comment bien trahir les images ?”, Enseigner (par) la littérature dans les cours de français à l’université, 日本フランス語フランス文学会, Cahier n° 31, 2023/3

4. 口頭発表

AVOCAT ERIC MARC “Comment bien trahir les images ?”, Enseigner (par) la littérature dans les cours de français à l’université, 日本フランス語フランス文学会, 大阪大学(対面), 2022/10/23

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019年度～2023年度、基盤研究(C) 一般、代表者:AVOCAT ERIC MARC

課題番号:19K00473

研究題目:Rethinking political representation in the light of dramatic art under the French Revolution

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本フランス語フランス文学会・学会誌編集委員, 2011年6月～現在に至る

平光 文乃 助教

1976年生。2012年、京都大学大学院文学研究科博士後期課程(フランス語学フランス文学専攻)修了。博士(文学)(京都大学、2012年)。2021年4月大阪大学大学院文学研究科助教。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科 助教。

専攻：フランス文学。

1. 論文

平光文乃 『見いだされた時』冒頭に関する考察—タンソンヴィル滞在か、タンソンヴィルの部屋の描写か— *GALLIA* 第 62 号, pp.75-90, 査読有, 2023/3/4

2. 著書 (単著・編著)

白田由樹, 辻昌子, 平光文乃他 (共著) 『装飾の夢と転生 世紀転換期ヨーロッパのアール・ヌーヴォー 第1巻 イギリス・ベルギー・フランス編』国書刊行会, pp.274-315, 2022/10/19

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

平光文乃 『見いだされた時』冒頭に関する一考察 関西ブルースト研究会, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/4/2

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2022 年度、研究活動スタート支援、代表者:平光文乃

課題番号:21K19984

研究題目:『失われた時を求めて』タンソンヴィルの部屋の生成と最終篇冒頭の校訂に関する研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

中国文学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

演習においては、基礎的な語学力の習得を意識した教育をおこない、講義においては、専門的知識の習得とその応用に主眼を置いた教育を行った。大学院生の研究計画・研究報告については、通常の授業時間ではスケジュールや研究テーマの絞込みをはじめ、研究テーマに即した事項を中心にディスカッションを行い、年度の初めと終わりに演習で発表させ、指導するほか、学会発表や論文の執筆に際しても綿密な指導をおこなってきた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022年度5月現在)

教授 1名 准教授 1名 講師 0名 助教 0名

教授：浅見 洋二

准教授：林 暁光

1-2-2 在学生 (2022年度5月現在)

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		2	4	2	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	2	0	0	0

*うち留学生 6名、社会人学生 1名

【文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		3	1	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	2	0	0	0	0	0

*うち留学生 2名、社会人学生 0名

1-2-3 修了生 (2022年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
--	-------------------	---------------------------	----------------------------

人文学研究科			
文学研究科	2	0	0

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学（2022年度）

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 0名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況（研究者名、国、所属先）

なし

1-4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧（事業名・主催者・実施期間）

なし

1-4-2 市民向け講座・講演（講座名・主催者・実施日）

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注）3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1：0名 DC2：0名 PD：0名 RPD：0名（計0名）

【文学研究科】 DC1：0名 DC2：0名 PD：0名 RPD：0名（計0名）

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	2(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)
計	2(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	0	0	0	0	0
文学研究科	0	1	1	0	0	2

計	0	1	1	0	0	2
---	---	---	---	---	---	---

1-6-3. 業績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

小川主税「北京の愛、上海の愛—胡也頻とその初期小説」『日本中国学会報』第 74 巻, pp.5-12, 査読有, 2022/10/8

村田真由「溝壑を填む」ということ—文天祥試論—『日本中国学会報』第 74 巻, pp.62-76, 査読有, 2022/10/8

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

小川主税「愛と革命の大学叙事——茅盾「路」を中心に」, 古典から近代へ:清代と民国期の学問,,大阪大学箕面キャンパス(対面), 2022/8/1

村田真由「世界の終わり—文天祥「山河破碎」句をめぐる」, 日本宋代文学学会第 9 回大会, 日本宋代文学学会, 大阪大学(オンライン), 2022/11/26

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
--	------	------	---

人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路（就職先など、数）

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	0	0	0	0	0	1	1	2

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	0	0	0	0	0

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

II. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

教員は科学研究費を取得して国内外の学会で研究発表を行ったほか、国内外の学術誌に論文を発表した。また、教員は

日本中国学会や東方学会で専門委員等をつとめるなど、各学会において主導的活動を行った。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2-3. 教員の研究活動

浅見 洋二 教授

1960年生。東北大学大学院文学研究科博士課程中途退学。文学博士（京都大学、2009年）。東北大学助手、山口大学講師、同助教授、大阪大学文学研究科助教授、同准教授を経て、2009年4月同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：中国古典詩学

1. 論文

浅見洋二「父と子—蘇軾・陸游の詩における「孝」をめぐる」『國學院中国学会会報』第68巻, pp.1-24, 査読無, 2022/12

浅見洋二「罪人と盲者: 中国文学中光明と黑暗の象徴体系」『中国文学学報』第12巻, pp.87-98, 査読有, 2022/6

浅見洋二「陸游詩中の田園与国家: 以《耕織図詩》及勸農文、論俗文為線索」『五声十色: 文図学視聽進行式』, pp.13-39, 査読無, 2022/5

2. 著書（単著・編著）

浅見洋二『陸游』明治書院, 525p., 2022/12

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

浅見洋二「父と子—蘇軾・陸游の詩における「孝」をめぐる」, 國學院大學中国学会第65回大会, 國學院大學中国学会, 國學院大學(ハイブリッド), 2022/10/23

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019年度～2022年度、基盤研究(C) 一般、代表者:浅見洋二

課題番号:19K00369

研究題目:テキストの公と私—蘇軾の詩詞・書簡と文集編纂に関する研究—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本中国学会・副理事長, 2021年4月～現在に至る

日本中国学会・理事, 2017年4月～現在に至る

日本中国学会・評議員, 2011年4月～現在に至る

中国社会文化学会・評議員, 2006年4月～現在に至る

林 暁光 准教授

1981年生。復旦大学博士課程卒業。文学博士(復旦大学、2011年)。浙江大学講師、同副教授を経て、2021年4月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：中国文学

1. 論文

林暁光 「漢魏六朝文學文本的變異形態及類型」『文学遺産』2023 第2号, pp.15-29, 査読有, 2023/3/1

林暁光 「中国文学における「鬧」——喧騒から攪乱へ——」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第63巻, pp.117-147, 査読無, 2023/2

林暁光 「松桂堂帖刻米芾手跡「浄名齋記」復原」『芸術学研究』2023年第1号, pp.20-32, 査読有, 2023/1

林暁光 「作為藝術史的文学史—以中古文學為中心的方法論省思」『芸術学研究』2022年第4号, pp.27-40, 査読有, 2022/8

林暁光 「不徹底的歴史主義文学観—從古典文学研究視角看章学誠」『斯文』第8巻, pp.3-26, 査読無, 2022/5

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

林暁光(翻訳)「唐代士大夫の科举意識—岑参の場合(著者岡本洋之介)」『古代文学前沿与評論』2022 第12号, pp.120-130, 査読無, 2022/12

林暁光(翻訳)「宋孝武帝及其時代(著者越智重明)」『中外論壇』2022 第2号, pp.73-118, 査読無, 2022/6

林暁光(書評)「越智重明先生学述」『中外論壇』2022 第2号, pp.235-246, 査読無, 2022/6

4. 口頭発表

林晓光 「讀《文選》卷五八謝朓《齊敬皇后哀策文》— 貴族文學的禮儀現場及身分性用典」, 文本細讀與文學史微觀察—周秦漢唐讀書會, 文學遺產編輯部・揚州大学文學院, 揚州大学 (ハイブリッド), 2023/3/18

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

テキスト環境論

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

文学研究科と言語文化研究科の統合による人文学研究科の新設に伴い、旧文化動態論専攻文学環境論コースと旧文化表現論専攻比較文学専門分野が一体となり、新たにテキスト環境論が開設された。教員数は4名となり、より充実した指導体制となった。旧課程での教育方法を引き継ぐ形で、日本語・英語・ドイツ語文献を中心に読解力と分析力の基礎・応用学力を鍛えるトレーニングを行うとともに、文学理論の基本概念と応用の習得も徹底し、それらの諸力を増進させることによりかなりの進歩が見られた。比較文学系の講義・演習では、主として英語圏と近代日本の資料を使用し、適宜、現代の大衆文化の事例に言及しながら、比較文学の基礎から応用までの教育を行った。各授業において、口頭発表と論文をできるかぎり各受講生同士で論評するよう徹底させ、質疑応答の練習を行った。修士論文・博士論文の作成についても、主指導教員のみならず全教員による集団指導体制で充実した指導と助言を行うことができた。その結果、2022年度は5名が修士論文を提出した。在籍中の院生に対しても、今後の修士論文・博士論文の作成に向けて同様の体制で指導を行なった。2022年度は留学生が5名在籍し、研究活動の活性化に貢献し、広く日本と海外の文学を研究領域とすることの実が挙げられた。年度末に修士論文を発表する会をハイブリッド形式により公開で催し、成果を国境を超えて共有するとともに、在籍中の院生ならびに進学希望の学部生や留学生に経験に基づくアドバイスを与える貴重な場となった。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022年度5月現在)

教授 3名 准教授 1名 講師 0名 助教 0名

教授：石割 隆喜、橋本 順光、三谷 研爾

准教授：鈴木 暁世

1-2-2 在学生 (2022年度5月現在)

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		5	3	0	0	0	0
留学生	国費	0	2	0	0	0	0
	私費	1	1	0	0	0	0

※うち社会人学生0名

【文学研究科】 比較文学 (文学環境論)		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		6 (3)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

留学生	国費	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	私費	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

*文化動態論修士課程は博士前期の()に記入
※うち社会人学生 0名

1-2-3 修了生 (2022 年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	5 (3)	0 (0)	0 (0)

*文化動態論修士課程は博士前期の()に記入

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022 年度)

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 0名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

計 0名

1-4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注) 3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1: 0名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計0名)

【文学研究科】 DC1: 0名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計0名)

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計

人文学研究科	2(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)
文学研究科	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)
計	2(2)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	3(3)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	2	0	0	3	5
文学研究科	0	1	0	0	0	1
計	0	3	0	0	3	6

1-6-3. 業績

(1)論文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

呉昊星 “Lost items and exposed shame - dreamcore’s inheritance and transcendence of liminal space and defamiliarization”
Journal for Cultural Research 第 26 巻第 2 号, pp.153-165, 査読有, 2022/6/7

Anna Shimomura “‘Kresy’ as the heart of darkness: Reading Polish and Belgian colonialisms” *New Perspectives* 第 30 巻第 4 号,
pp.323-348, 査読有, 2022/10/13

【文学研究科】

〔博士前期〕なし

〔博士後期〕

西元まり 「「解体予定の中銀カプセルタワービルへーその思いと未来をつなぐもの」(アート・メディア論修士秋田奈美共著)」『Arts
and Media 』第 12 号, pp.98-118, 査読有, 2022/7/31

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕

山田志歩 「日本占領下の台湾における登山—ニイタカヤマノボレに至るまで—」, 阪大比較文学会シンポジウム「戦中戦
後東アジアの文芸空間の諸相をめぐって」, 阪大比較文学会, 大阪大学豊中キャンパス (ハイブリッド), 2023/1/23

山田志歩 「志賀重昂『日本風景論』における剽窃と引用—国粹主義と西洋を志向する近代化の葛藤—」, 第 7 回 大阪大
学大学院人文学研究科 若手研究者フォーラム, 大阪大学大学院人文学研究科, 大阪大学豊中キャンパス (ハイブリッ
ド), 2023/3/24

福島萌木 「野溝七生子のギリシア志向とシルクロード—ギリシア趣味がシルクロード幻想に結実するまで—」, 第 6 回
大阪大学大学院人文学研究科 若手研究者フォーラム, 大阪大学大学院人文学研究科, 大阪大学豊中キャンパス (ハイブ
リッド), 2022/9/14

福島萌木 「帝国日本の『西進』と中央アジア横断鉄道構想—安西冬衛の中央アジア詩を中心に—」, 阪大比較文学会シン
ポジウム「戦中戦後東アジアの文芸空間の諸相をめぐって」, 阪大比較文学会, 大阪大学豊中キャンパス (ハイブリッド),
2023/1/23

〔博士後期〕

Anna Shimomura "Tracing Joseph Conrad's colonial ambivalence in the popular literature of Imperial Japan", 第5回アルザス・新世代ワークショップ"Japanese Transnationalism and Empire"「日本のトランスナショナリズムと帝国」, 「国際日本研究」コンソーシアム (CGJS) ,法政大学国際日本学研究所 (HIJAS)・アルザス欧州日本学研究所 (CEEJA) (対面) , 2022/5/11

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

西元まり 「現代サーカスの東西文化接触とその表象 ―フランコ・ドラゴーンが描く飛翔―」, 阪大比較文学会シンポジウム「描写の戦略と分析 メディアを横断する表象の力学」, 阪大比較文学会, 大阪大学豊中キャンパス (対面) , 2023/1/30

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

西元まり 「シルク・ドゥ・ソレイユの歩みを体現する『アレグリア』『アレグリア日本公演公式パンフレット』, pp.60-61, 査読無, 2023/2/7

西元まり 「書評『快男児―日本エンタメの黎明期を支えた男』「明治期に宝川一座を欧米に連れて行った男の物語」『サーカス学会誌』, pp.59-60, 査読無, 2022/7/1

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】 なし

【文学研究科】 なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 (就職先など、数)

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0(0)	0(3)	0(0)	1(0)	0(0)	1(3)	1(0)	0(0)	2(3)

*文化動態論修士課程は博士前期の()に記入

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	0	0	0	0	0

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 3 名

【人文学研究科】: 0 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 3 名

<内訳> 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 1 名
その他 2 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

教員は、活発な研究活動を行い、著作、論文、翻訳などの刊行・出版等の点数は多数にのぼる。また、学会や各種研究会への参加等にも積極的に取り組むとともに、科学研究費や外部資金を利用して研究を行い、共同研究を組織したほか、研究分担者として複数の海外を含む研究機関での共同研究に参加した。大学院生は、ほぼ全員が 1 本以上の論文を執筆し、学会発表や研究会での発表を行い、積極的に学会に参加した。また大学院生も学内外の助成やプログラムなどに申請した。その結果、多くの海外調査および外国語による研究発表が可能となった。メーリングリストや授業などで、関係する内外の書籍や論文を幅広く推薦・紹介しあい、収集と講読とともに、最新の研究動向をふまえるよう心がけた。2022 年度には 5 名の修士・博士前期課程修了生を出し、M1 の 5 名と D1～D3 の 5 名を含めて、それぞれの研究テーマについての研鑽に努めた。研究室の設備・備品は必要に応じて整えるとともに、定期的な点検も実施している。研究環境は充実しており、研究室全体の活気も高い。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2-3. 教員の研究活動

石割 隆喜 教授

1970 年生まれ。大阪外国語大学外国語学部（英語学科）卒、大阪大学大学院文学研究科博士課程（英文学専攻）修了。博士（文学）（大阪大学、1999）。大阪外国語大学助手、講師、助教授、准教授、2007 年 10 月大阪大学大学院文学研究科准教授、2019 年 4 月同教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。日本英文学会第 22 回新人賞（1999）。専攻：アメリカ文学

1. 論文

石割隆喜「神を見る“Star-Gazer”——*Mason & Dixon* における科学と宗教」『日本英文学会関西支部第 16 回（2021 年度）大会 Proceedings』日本英文学会関西支部，査読有，2023/3

石割隆喜「神を見る“Star-Gazer”——*Mason & Dixon* における科学と宗教」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 63 巻，pp.33-58，査読無，2023/2

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

石割隆喜「*Mason & Dixon* における科学と宗教——*Gravity's Rainbow* との比較をまじえて」，日本アメリカ文学会関西支部例会，日本アメリカ文学会関西支部，千里金蘭大学（対面），2022/9/24

5. 受賞歴（2022 年度）

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況（研究代表者となったもの）

6-1. 2020 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者：石割隆喜

課題番号：20K00415

研究題目：ピンチョン文学における科学と人文学との接点について——「見ること」という観点から

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本アメリカ文学会関西支部・大会運営委員, 2019年4月～2023年3月

日本アメリカ文学会関西支部・評議員, 2011年4月～現在に至る

橋本 順光 教授

1970年生。大阪大学文学部英文学専攻卒業（1994）、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究修士課程修了（1997）、ランカスター大学大学院歴史研究科博士課程修了 Ph. D., （2008）。2000年4月より日本学術振興会特別研究員（DC2）。2001年4月横浜国立大学教育人間科学部講師、2009年4月大阪大学文学研究科准教授、2019年4月同教授を経て、2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：比較文学・英国地域研究

1. 論文

Hashimoto, Yorimitsu, “Botanical Japonisme: Japanese Gardens, Plant Nurseries, and Watercolour Paintings” *Studies in Japonisme*

第42巻, pp.126-131, 査読無, 2023/3/31

橋本順光 「植物のジャポニスムー庭園・植木会社・水彩画をめぐる研究とその課題」『ジャポニスム研究』第42巻, pp.118-125, 査読無, 2023/3/31

橋本順光 「芸術家としての蜘蛛の系譜ー蜘蛛の巣という小宇宙をめぐる詩作の比較文学」『稲賀繁美 編『蜘蛛の巣上の無明 インターネット時代の身心知の刷新にむけて』花鳥社』第巻第号, pp.3-12, 査読無, 2023/2/28

橋本順光 「1920年代東京における国際主義とアジア主義の交錯 エスペラント・神智学・バハイ 付・英国のエージェント H・P・シヤストリの孫文面会記とその翻訳」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第62巻, pp.145-166, 査読無, 2023/2/23

橋本順光 「透明人間現る 隠れる物語から露わにする物語まで」『一柳廣孝・大道晴香編著『怪異と遊ぶ』青弓社』, pp.156-191, 査読無, 2022/4/27

橋本順光 「朝顔をめぐる英語圏のジャポニスム ガーデニングから禅まで」『ジャポニスム学会編『ジャポニスムを考える』思文閣出版』, pp.204-229, 査読無, 2022/4/15

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

橋本順光 「蜘蛛の巣越しの空ー天空を覆う蜘蛛と電線の図像学」稲賀繁美 編『蜘蛛の巣上の無明 インターネット時代の身心知

の刷新にむけて』, 花鳥社, pp.115-121, 2023/2

橋本順光 (監訳) 「ニール・ファーガソン『社会ネットワークで変化した世界』 [Networld]全 3 巻」, 丸善出版(DVD)全 3 巻, 2022/12

橋本順光 「松村昌家著『水晶宮物語』の余白に ヴィクトリア朝文化研究の基点と展望』『ヴィクトリア朝文化研究』, 第 20 号, pp.7-13, 2022/11

橋本順光 「分断を統合する陶磁器—インドの陶芸家グルチャラン・シンと『愛の不時着』』『紫明』第 51 号, pp.68-74, 2022/10

橋本順光 「五十殿利治『久米民十郎 モダニズムの岐路にたつ「霊媒派」』せりか書房 2022 書評』『図書新聞』2022/9/10 日号, 2022/9/10

橋本順光 「アンケート「ジャポニスムとはなにか？」』『ジャポニスムを考える』, pp. 311-313, 2022/4/15

4. 口頭発表

橋本順光 「物語としての義経ジンギスカン説 明治から令和まで」, 講演, 狭山市熟年大学, SAYAKA ホール(対面), 2023/3/16

橋本順光 「蜘蛛の巣越しの空をめぐる画像学—手塚治虫の「女郎蜘蛛」(1971)のために」, 阪大比較文学会学位論文発表会, 阪大比較文学会, 大阪大学(対面), 2023/2/15

橋本順光 「ブラック・ジャックの「アリの足」精読」, はんだいらボ@EXPOCITY Lab 漫画を読んで読解力をつけよう, 大阪大学大学院比較文学研究室, EXPOCITY(対面), 2023/2/5

橋本順光 「ブラック・ジャックの「ピノコ再び」精読」, はんだいらボ@EXPOCITY Lab 漫画を読んで読解力をつけよう, 大阪大学大学院比較文学研究室, EXPOCITY(対面), 2023/2/5

橋本順光 「蜘蛛としての芸術家の肖像—ディキンソンから山頭火まで」, 阪大比較文学会シンポジウム「描写の戦略と分析 メディアを横断する表象の力学」, 阪大比較文学会, 大阪大学(対面), 2023/1/30

橋本順光 「英国エージェントの孫文面会記—上海における H・P・シャストリの諜報と広報の活動」, 阪大比較文学会シンポジウム「戦中戦後東アジアの文芸空間の諸相をめぐる」, 阪大比較文学会, 大阪大学(ハイブリッド), 2023/1/23

Hashimoto, Yorimitsu, “Japanese Migrants and the A. K. Hasheem Company at Colombo: Tourists, Pan-Asianists, and Immigration to Brazil”, 第 114 回 Global History Seminar, 大阪大学大学院人文学研究科グローバルヒストリー・地理学コース, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/12/23

Hashimoto, Yorimitsu, “Palimpsest Pirates: Modern Japan’s Piracy of British Maritime Culture and Nautical Narrative”, XXIII International Congress of the ICLA, International Comparative Literature Association (ICLA), Tbilisi State University (ハイブリッド), 2022/7/26

Hashimoto, Yorimitsu, “Piracy or Pastiche? Comparative Literature to (un)think about Pirates in Japan”, XXIII International Congress of the ICLA, International Comparative Literature Association (ICLA), Tbilisi State University (ハイブリッド), 2022/7/25

橋本順光 「北極海航路をめぐる幻想と現状」, 講演, 大阪府北部コミュニティカレッジ(ONCC), 豊中市立文化芸術センター(対面), 2022/6/28

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者: 橋本順光

課題番号: 21K00455

研究題目: 近代日本の海洋文化振興における英国モデル転用についての比較文学的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

- ・近代における日本タイ交流史研究, チュラーロンコーン大学(タイ)
- ・トランスメディアの比較文学研究, ラクィラ大学(イタリア)
- ・インド初の陶芸家グルチャラン・シン(Gurcharan Singh)についてのドキュメンタリー映画作成, デリー・ブルー陶磁器トラスト(Delhi Blue Pottery Trust)(インド)
- ・ヨーロッパと日本における世界漫遊(1869-1914)についての研究, ジュネーブ大学(スイス)
- ・日本と韓国の比較文学研究に関する共同研究とワークショップ開催, 淑明女子大学校(韓国)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

ジャポニスム学会・理事, 2021年5月～現在に至る

日本ヴィクトリア朝文化研究学会・副会長, 2020年4月～現在に至る

日本比較文学会・国際活動委員, 2013年5月～現在に至る

三谷 研爾 教授

1961年生。1987年、大阪大学大学院文学研究科博士課程中退。博士(文学、大阪大学)。大阪府立大学助手、講師、大阪大学准教授をへて2008年4月から同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：ドイツ、オーストリア文学および文化研究

1. 論文

三谷研爾「ハイデルベルク逍遙 両大戦間期におけるドイツ文化受容についての覚え書き」『待兼山論叢／文学篇』第56巻, pp.1-17, 査読無, 2022/12/25

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

三谷研爾(解説)「カフカ『変身』」『ハプスブルク事典』, pp.594-595, 査読無, 2023/2/2

三谷研爾(書評)「林寄伸二・村上浩明編『カフカの長編小説』」『独文学報』第38巻, pp.75-81, 査読有, 2022/11/1

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022年度～2025年度、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))、代表者:三谷研爾

課題番号:22KK0004

研究題目:両大戦間のハイデルベルクにおける人文学知の受容と交流

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

阪神ドイツ文学会・会長, 2021年4月～2023年3月

日本オーストリア文学会・阪神地区幹事, 2015年5月～現在に至る

関西チェコ/スロバキア協会・会長, 2009年4月～現在に至る

大阪大学ドイツ文学会・会長, 2008年1月～現在に至る

鈴木 暁世 准教授

1977年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。大阪大学文学研究科助教、V&A(ロンドン)客員研究員、福岡女子大学専任講師、金沢大学准教授を経て、2020年4月より大阪大学文学研究科准教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻:日本近代文学、比較文学

1. 論文

なし

2. 著書(単著・編著)

乾 英治郎, 小松 史生子, 鈴木暁世他(共著)『〈怪異〉とミステリ:近代日本文学は何を「謎」としてきたか』青弓社, pp. 75-95, 2022/12

John FitzGerald, Richard J. Kelly, Suzuki, Akiyo.他(共著) *Ireland-Japan Connections and Crossings* Cork University Press, Atrium, pp. 75-95, 2022/12

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

鈴木暁世(書評)「中川成美・西成彦編著『旅する日本語—方法としての外地巡礼』」『昭和文学研究』第86巻, pp.133-135, 査読無, 2023/3/20

4. 口頭発表

鈴木暁世 「ナショナリズムとノスタルジー—戦後日本における「ケルト」受容再考—」, 戦中戦後東アジアの文芸空間の諸相をめぐって, 大阪大学比較文学会, 大阪大学(ハイブリッド), 2023/1/23

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018年度～2022年度、基盤研究(C) 一般、代表者:鈴木暁世

課題番号: 18K00314

研究題目:戦中戦後期農民文学の展開と変容の研究—アイルランド文学と東アジアとの関係を軸に

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

近代日本文化とアイルランド研究会 (科研費 基盤研究(C)代表者:鈴木暁世 研究題目:戦中戦後期農民文学の展開と変容の研究—アイルランド文学と東アジアとの関係を軸に) を年2回のペースで開催。

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本近代文学会・評議員, 2022年4月～現在に至る

国際芥川龍之介学会・運営委員, 2021年4月～現在に至る

日本近代文学会・運営委員, 2021年2月～2023年2月

日本文学協会・運営委員, 2021年1月～現在に至る

日本アイルランド協会・理事、編集委員長, 2020年4月～現在に至る

日本比較文学会関西支部・幹事, 2020年1月～現在に至る

金沢大学国語国文学会・理事, 2014年4月～現在に至る

比較・対照言語学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022年度】

大学院では、理論言語学、機能文法理論、(形式)意味論、語用論関係の講義と演習、論文書評の演習、博士論文作成演習、修士論文作成演習などを行なった。また、HLC News を編纂し、英語学研究室や院生の研究活動、就職状況等を同窓生の方々に報告した。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教員 (2022年度5月現在)

教授 2名 准教授 1名 講師 0名 助教 0名

教授：岡田 禎之、神山 孝夫
准教授：田中 英理

1-2-2 在学生 (2022年度5月現在)

【人文学研究科】		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		1	1	0	0	0	1
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	0

*うち留学生 1名、社会人学生 1名

【文学研究科】 英語学 (言語生態論)		2022年度の学生数					
		大学院 博士前期/(修士) (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総数		3(1)	3	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	1	0	0	0	0	0

*文化動態論修士課程は博士前期の()に記入
*うち留学生 1名、社会人学生 1名

1-2-3 修了生 (2022年度)

	大学院 博士前期/(修士) (M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
--	----------------------------	---------------------------	----------------------------

人文学研究科			
文学研究科	2(1)	2	0

*文化動態論修士課程は博士前期の()に記入

1-3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022年度)

【人文学研究科】 0名

【文学研究科】 0名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

計 0名

1-4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

なし

1-5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注) 3年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1: 0名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計0名)

【文学研究科】 DC1: 0名 DC2: 0名 PD: 0名 RPD: 0名 (計0名)

1-6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	1(0)	0(0)	2(2)	1(1)	4(3)
文学研究科	1(1)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	3(1)
計	1(1)	2(0)	0(0)	2(2)	2(1)	7(4)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計

人文学研究科	0	0	0	0	0	0
文学研究科	0	2	0	0	0	2
計	0	2	0	0	0	2

1-6-3. 業績

(1)論文

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

〔その他〕

Hamamoto Hideki “English and Japanese Resultatives--Resultative Constructions vs. Lexical Resultatives”

International Journal of English and Cultural Studies 第5巻第1号, pp.44-58,査読有, 2022/8/1

Hamamoto Hideki “Resultatives as an Equative Construction: Evidence from Japanese and Romanian, and Its

Implication for English” *International Journal of Language and Linguistics* 第10巻第4号, pp.248-259,査読有, 2022/8/1

濱本秀樹「Umberto Eco 『薔薇の名前』の謎」『Journal of International Studies(近畿大学国際学部紀要)』第7巻, pp.151-163,査読無, 2022/6/1

Hamamoto Hideki “Instruction of English Counterfactuals Based on Embodies Cognitive Experience”『認知言語学論考』第16巻, pp.249-271,査読有, 2022/8/1

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

菊池由記「N-proof X の意味規定に関する構文分析」『日本認知言語学会論文集』第22巻, pp.174-186,査読有, 2022/4/1

岩宮努「事態参与者に対する活動制限を示す remain V-ed の主格補語構文」『待兼山論叢(文学篇)』第56巻, pp.39-60, 査読無, 2022/12/25

森藤庄平「英語の殺害様態動詞の様態・結果について--構文アプローチの観点から--」『英語の本質を共時的・通時的に探る』, pp.121-151,査読無, 2022/4/1

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

菊池由記「N-proof X と「大丈夫」の構文形態論的分析」, 阪大英文学会第55回大会,阪大英文学会,大阪大学(オンライン), 2022/10/29

岩宮努「連結動詞 remain を伴って生じる「未完了」を表す2つの主格補語構文」, 日本英語学会第38回大会,日本英語学会,(オンライン), 2022/11/5

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

なし

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】 なし

【文学研究科】 なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路 (就職先など、数)

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	2	0	0	0	2	1	0	3

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	0	0	1	0	1	1	2

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】 なし

【文学研究科】 なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期/後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、

アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 1名

【人文学研究科】：0名

＜内訳＞ 技術職 0名 ジャーナリスト 0名 アーティスト 0名 中・高等学校の教員 0名
その他 0名

【文学研究科】：1名

＜内訳＞ 技術職 0名 ジャーナリスト 0名 アーティスト 0名 中・高等学校の教員 1名
その他 0名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022年度】

教員は各自の計画に合わせて論文を発表し、科学研究費の研究も各自の年次計画に沿って実行している。大学院学生の研究活動は、論文が7本、口頭発表が2本であった。*OUPEL*については隔年刊行しているため、2022年度は刊行せず、次年度のための準備期間とした。「阪大英文学会」については、他の学会の開催状況なども勘案して、オンラインでの開催となったが、3年ぶりに開催することができた。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

阪大英文学会 第55回大会（オンライン開催）2022/10/29

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2-3. 教員の研究活動

岡田 禎之 教授

1965年生。大阪大学大学院文学研究科博士課程（英語学専攻）中途退学。文学博士（大阪大学、2001年）。第37回市河賞（2003年）。大阪大学助手、岡山大学講師、金沢大学助教授、神戸市外国語大学助教授、大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2010年4月より同教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：英語学

1. 論文

岡田禎之「日本語における因果関係接続表現による等位構造の認可について」『待兼山論叢』第56巻文化動態論篇, pp.33-58, 査読無, 2022/12/25

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018年度～2022年度、基盤研究(C) 一般、代表者:岡田禎之

課題番号:18K00646

研究題目:テキストの結束関係と語彙概念拡張

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

阪大英文学会 第55回大会 2022年10月29日

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本英語学会・編集委員長, 2021年11月～現在に至る

日本英語学会・編集委員, 2019年7月～現在に至る

日本英語学会・学会賞委員会委員, 2020年4月～2024年3月

日本英語学会・評議員, 2013年4月～現在に至る

阪大英文学会・会長, 2018年10月～2022年10月

神山 孝夫 教授

1958年生。東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了。博士(文学)(東北大学)。大阪外国語大学外国語学部教授を経て、2007年10月より大阪大学大学院文学研究科教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻: 歴史言語学、音声学、ヨーロッパ文化史

1. 論文

なし

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

なし

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本古代ロシア研究会・理事, 2015年4月～現在に至る

田中 英理 准教授

1975年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。2007年博士(文学)。日本学術振興会特別研究員(PD)、愛媛大学教育学生支援機構英語教育センター講師、大阪医科大学総合教育講座講師を経て2015年10月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022年4月より大阪大学大学院人文学研究科准教授。専攻：英語学

1. 論文

なし

2. 著書 (単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

Tanaka, Eri, Masako Maeda and Yoichi Miyamoto. "On negative island effects and exhaustification with adjunct nani-o in Japanese", Japanese Korean Linguistics 30, Japanese Korean Linguistics, Simon Fraser University (対面), 2023/3/12

Tanaka, Eri and Kenta Mizutani "Granularity in number and polarity effects", LENLS 19, LENLS, 東京大学駒場(ハイブリッド), 2022/11/19

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021年度～2024年度、基盤研究(C) 一般、代表者:田中英理

課題番号:21K00525

研究題目:言語の意味理解におけるスケール・比較概念の汎用性:語用論、談話構造への発展

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【国際共同研究】

日本語・英語・ドイツ語における同等比較について、ライプニッツ言語研究所(ドイツ)

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本英語学会・編集委員, 2021年7月～現在に至る